

第2章 小千谷市の実態

(1) 小千谷市の人口・世帯数

① 小千谷市の人口・世帯数の推移

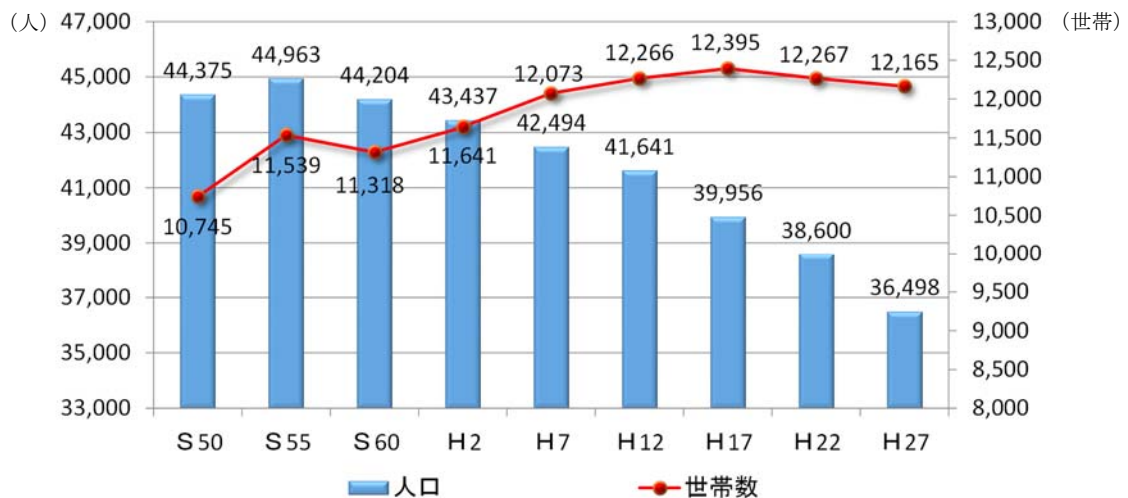
小千谷市の人口は、過去40年間では昭和55年の44,963人をピークに減少傾向が続いています。なお、その減少数は、昭和60年から10年間で約1,700人、平成7年から10年間で約2,500人、平成17年から10年間で約3,500人と、近年になるほど減少幅は大きくなっています。また、世帯数は、中越大震災後の平成17年を境に増加傾向から減少傾向に転じています。

表一 小千谷市の人口・世帯数の推移（資料：国勢調査）

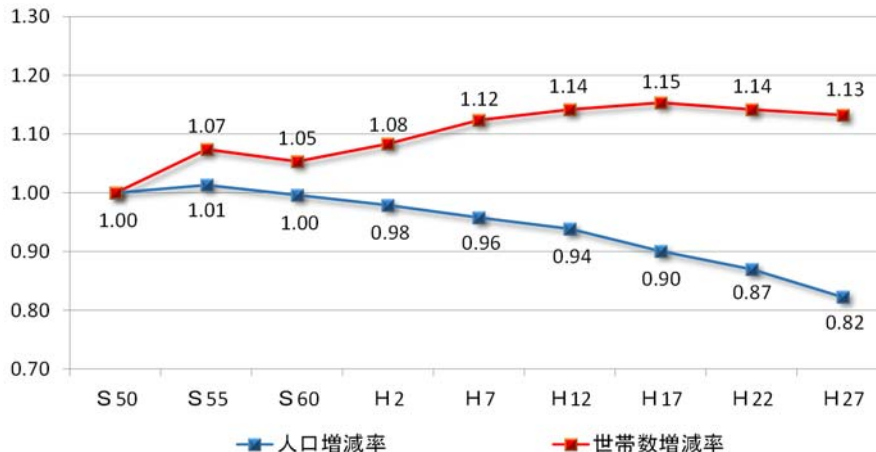
年度	人口(人)	人口増減率	世帯数(世帯)	世帯数増減率
S50	44,375	1.00	10,745	1.00
S55	44,963	1.01	11,539	1.07
S60	44,204	1.00	11,318	1.05
H2	43,437	0.98	11,641	1.08
H7	42,494	0.96	12,073	1.12
H12	41,641	0.94	12,266	1.14
H17	39,956	0.90	12,395	1.15
H22	38,600	0.87	12,267	1.14
H27	36,498	0.82	12,165	1.13

※増減率は、S50年を1.00とした場合の指数

グラフ一 小千谷市の人口・世帯数の推移（資料：国勢調査）



グラフ二 小千谷市の人口・世帯数の増減率の推移（資料：国勢調査）



② 小千谷市の年齢構成別人口の推移

65歳未満の人口が減少する一方、65歳以上の人口が増加しており、少子高齢化が進んでいることが観えます。

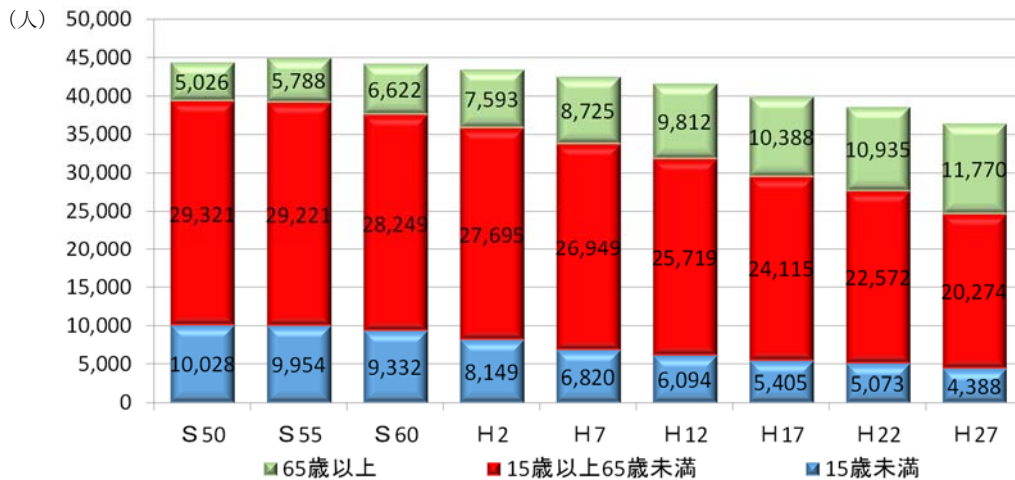
なお、平成27年の高齢化率は32.3%と全国平均（26.6%）を大きく上回っています。

表一 小千谷市の年齢構成別人口の推移（資料：国勢調査）

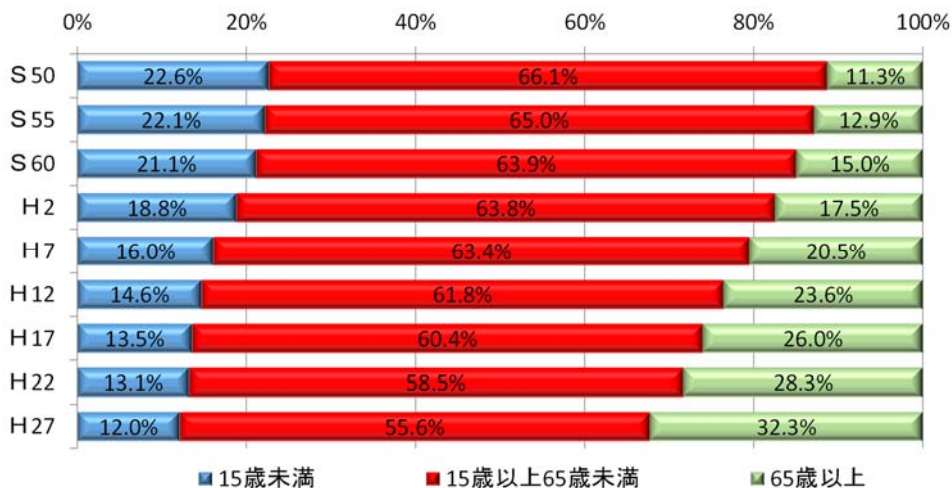
（単位：人）

年度	15歳未満	割合	15歳以上65歳未満	割合	65歳以上	割合	合計
S50	10,028	22.6%	29,321	66.1%	5,026	11.3%	44,375
S55	9,954	22.1%	29,221	65.0%	5,788	12.9%	44,963
S60	9,332	21.1%	28,249	63.9%	6,622	15.0%	44,203
H2	8,149	18.8%	27,695	63.8%	7,593	17.5%	43,437
H7	6,820	16.0%	26,949	63.4%	8,725	20.5%	42,494
H12	6,094	14.6%	25,719	61.8%	9,812	23.6%	41,625
H17	5,405	13.5%	24,115	60.4%	10,388	26.0%	39,908
H22	5,073	13.1%	22,572	58.5%	10,935	28.3%	38,580
H27	4,388	12.0%	20,274	55.6%	11,770	32.3%	36,432

グラフ一 小千谷市の年齢構成別人口の推移（資料：国勢調査）



グラフ二 小千谷市の年齢構成別人口割合の推移（資料：国勢調査）



③ 地区別人口の推移

用途地域が含まれる西小千谷、東小千谷、城川、千田、片貝地区に人口が集中しています。

また、平成7年から平成22年までの推移をみると、西小千谷、東小千谷、千田、片貝は減少傾向にありますが、城川地区は増加傾向にあります。

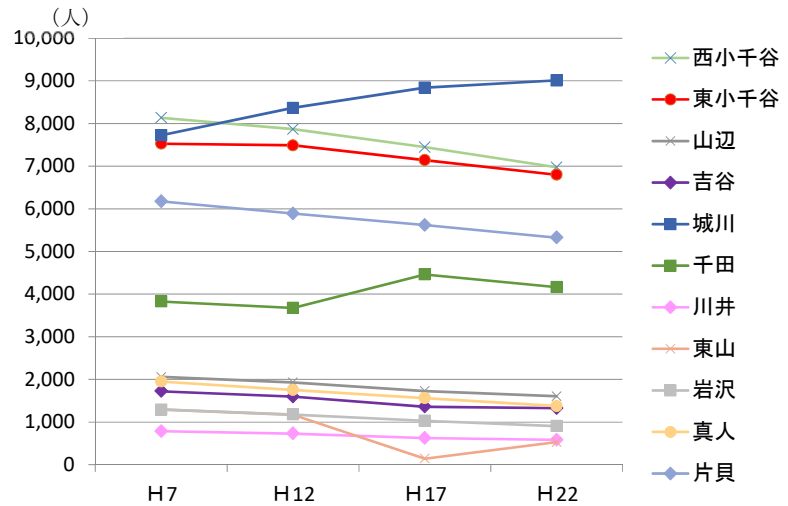
表一 小千谷市の地区別人口の推移（資料：小千谷市統計書）

（単位：人）

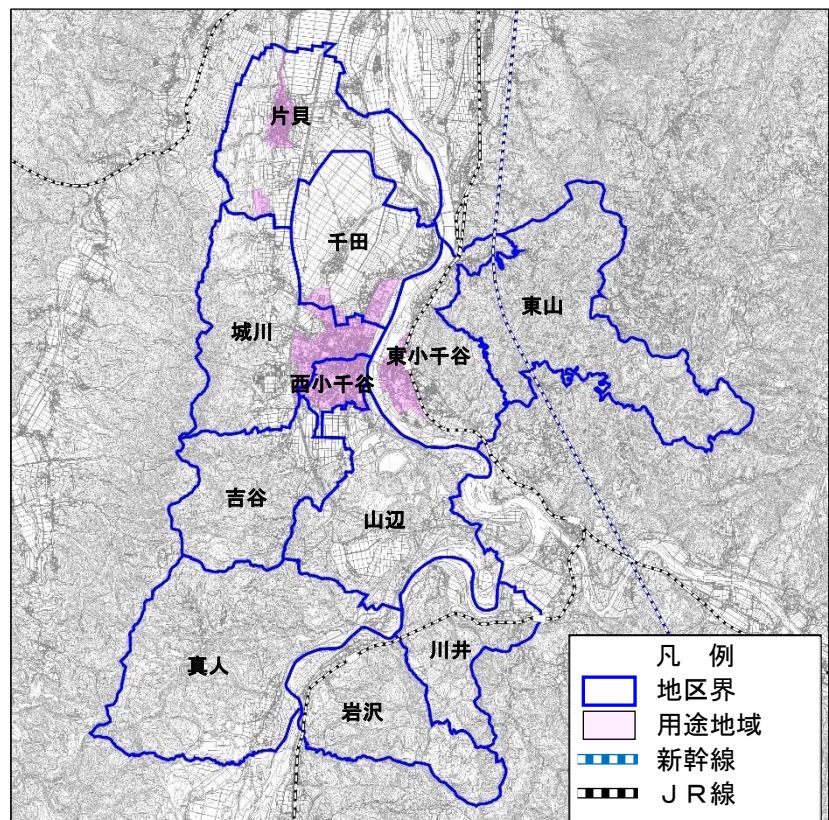
地区名	西小千谷	東小千谷	山辺	吉谷	城川	千田	川井	東山	岩沢	真人	片貝
H7	8,135	7,526	2,057	1,724	7,725	3,826	786	1,296	1,293	1,952	6,174
H12	7,867	7,487	1,930	1,595	8,366	3,676	730	1,172	1,178	1,754	5,886
H17	7,446	7,141	1,729	1,359	8,842	4,461	623	142	1,033	1,562	5,618
H22	6,973	6,799	1,607	1,326	9,011	4,165	581	530	907	1,378	5,323
増減率 (H7→22)	-14.3%	-9.7%	-21.9%	-23.1%	16.6%	8.9%	-26.1%	-59.1%	-29.9%	-29.4%	-13.8%

グラフー地区別人口の推移

（資料：小千谷市統計書）



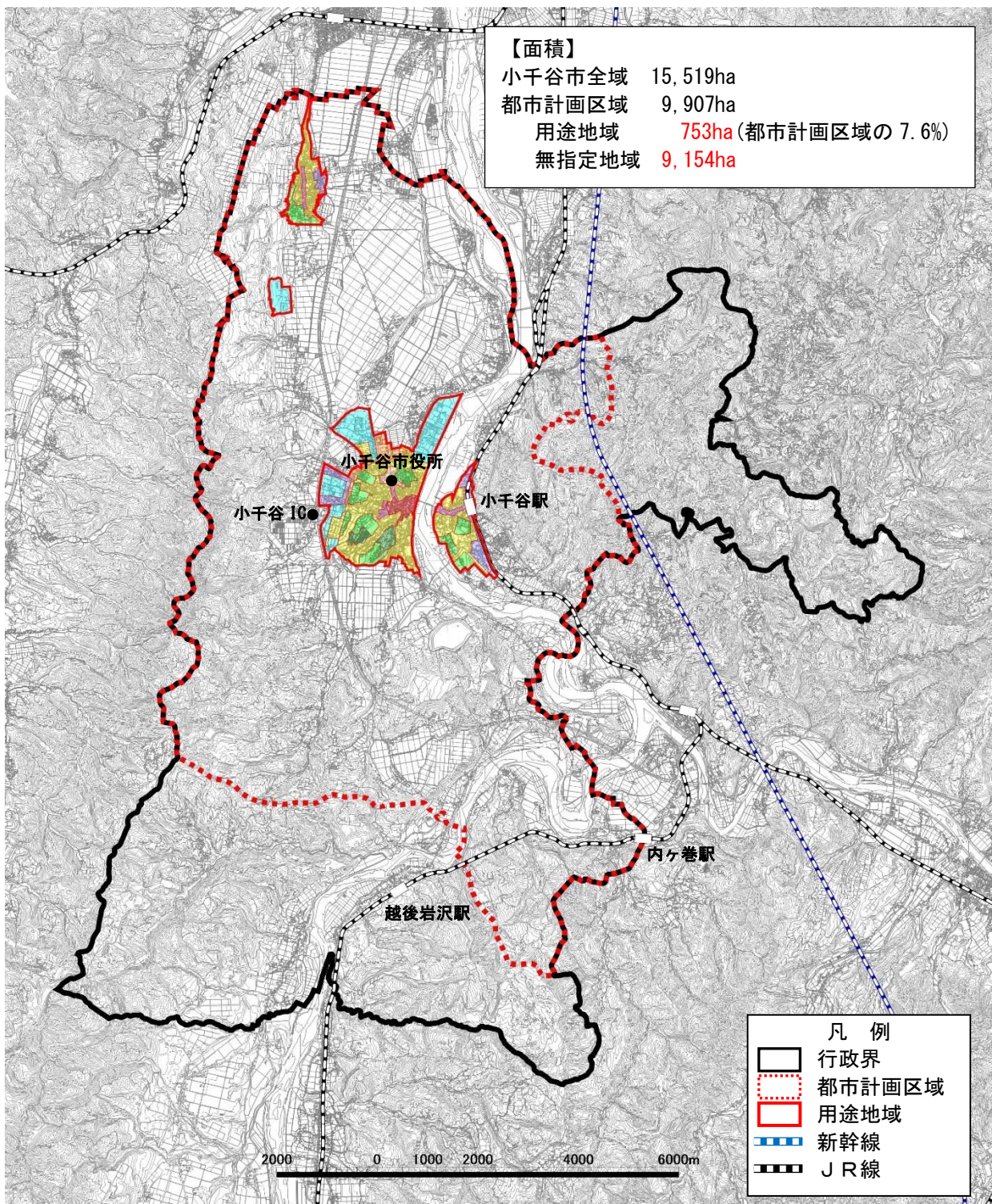
図一 地区位置図



④ 人口集積の状況

小千谷市の用途地域は 753ha が指定されており、用途地域内には平成 27 年 3 月 31 日時点で 20,910 人が居住しています。これらの都市計画区域に占める比率は、面積が 7.6%、人口が 60.0%となっており、県内他都市の状況と比較すると、本市の人口は用途地域内に集積している度合いが高いと言えます（p9 のグラフを参照のこと）。なお、用途地域は、令和 3 年 3 月に厚生連小千谷総合病院等の約 4.9ha を追加しました。

図一用途地域配置図



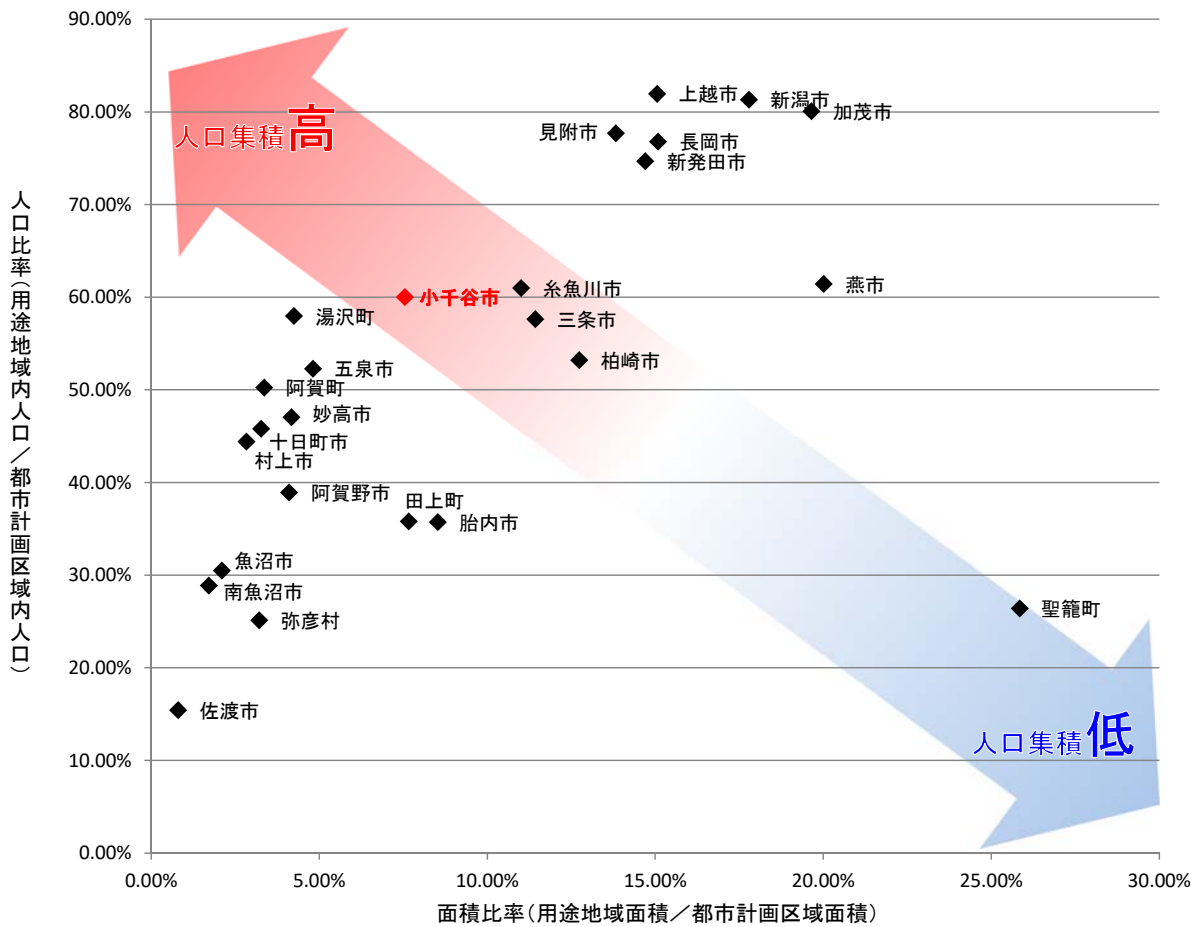
表一新潟県内における行政区域、都市計画区域、用途地域の面積及び人口の状況

(資料：新潟県の都市計画“資料編”(人口はH27.3.31時点の住民基本台帳データ))

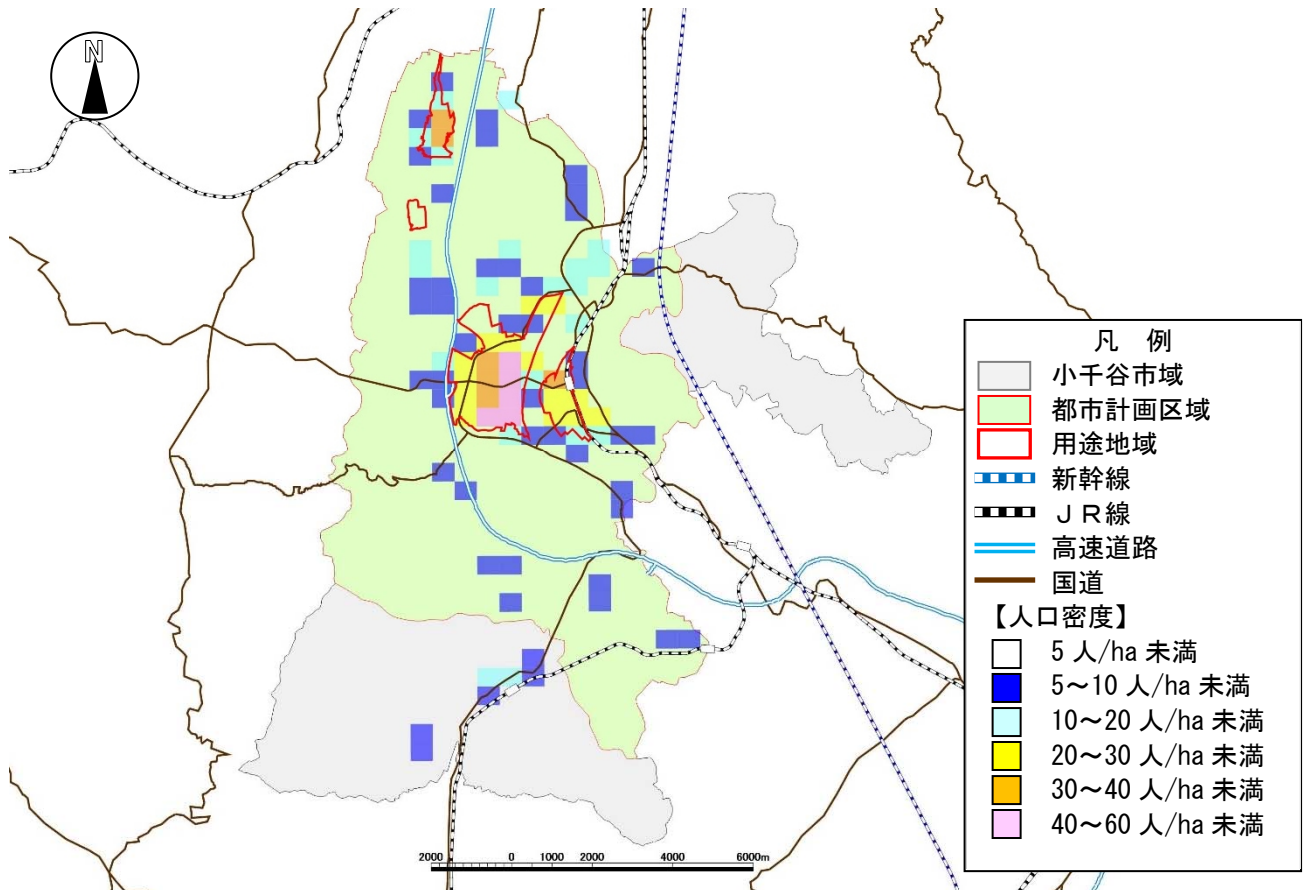
市町村名	行政区域		都市計画区域		用途地域		
	面積(ha)	人口(人)	面積(ha)	人口(人)	面積(ha)	人口(人)	人口密度
新潟市	72,645	801,270	72,610	801,270	12,919 (17.8%)	651,378 (81.3%)	50.42
長岡市	67,491	256,060	35,121	241,767	5,298 (15.1%)	185,642 (76.8%)	35.04
上越市	43,379	165,543	31,980	160,101	4,816 (15.1%)	131,159 (81.9%)	27.23
三条市	43,197	101,339	12,101	91,730	1,384 (11.4%)	52,855 (57.6%)	38.19
新発田市	53,310	100,685	10,669	79,748	1,569 (14.7%)	59,548 (74.7%)	37.95
柏崎市	44,203	87,857	8,816	69,224	1,123 (12.7%)	36,831 (53.2%)	32.80
燕市	11,096	81,917	9,311	81,310	1,864 (20.0%)	49,931 (61.4%)	26.79
村上市	117,426	64,247	28,872	56,614	820 (2.8%)	25,133 (44.4%)	30.65
南魚沼市	58,455	59,242	40,471	59,242	695 (1.7%)	17,102 (28.9%)	24.61
五泉市	35,191	53,144	16,329	52,616	787 (4.8%)	27,497 (52.3%)	34.94
佐渡市	72,446	49,816	24,352	39,083	196 (0.8%)	6,026 (15.4%)	30.74
十日町市	28,632	45,715	19,545	44,347	640 (3.3%)	20,298 (45.8%)	31.72
糸魚川市	74,624	45,493	9,529	39,485	1,049 (11.0%)	24,076 (61.0%)	22.95
阿賀野市	19,274	44,579	14,913	44,579	613 (4.1%)	17,347 (38.9%)	28.30
見附市	7,791	41,545	6,000	40,268	830 (13.8%)	31,285 (77.7%)	37.69
魚沼市	94,676	38,624	20,956	37,626	441 (2.1%)	11,464 (30.5%)	26.00
小千谷市	15,519	37,471	9,907	34,843	753 (7.6%)	20,910 (60.0%)	27.77
妙高市	44,563	34,359	13,669	30,620	571 (4.2%)	14,397 (47.0%)	25.21
胎内市	26,489	30,708	8,964	28,665	765 (8.5%)	10,239 (35.7%)	13.38
加茂市	13,372	29,000	2,997	26,623	589 (19.7%)	21,310 (80.0%)	36.18
聖籠町	3,799	14,287	3,799	14,287	982 (25.8%)	3,769 (26.4%)	3.84
田上町	3,171	12,443	2,568	12,443	197 (7.7%)	4,453 (35.8%)	22.60
阿賀町	95,289	12,358	2,317	3,979	78 (3.4%)	1,999 (50.2%)	25.63
弥彦村	2,517	8,467	2,516	8,467	81 (3.2%)	2,127 (25.1%)	26.26
湯沢町	35,729	8,204	5,413	7,364	230 (4.2%)	4,268 (58.0%)	18.56

※ 都市計画区域が指定されていない出雲崎町、津南町、刈羽村、関川村、粟島浦村は除く
用途地域の下段括弧は都市計画区域に対する比率

グラフー新潟県内における都市計画区域に対する用途地域の面積及び人口の比率



図一平成 22 年時点の人口密度の状況（資料：国勢調査）



⑤ 人口集中地区（D I D）の変遷

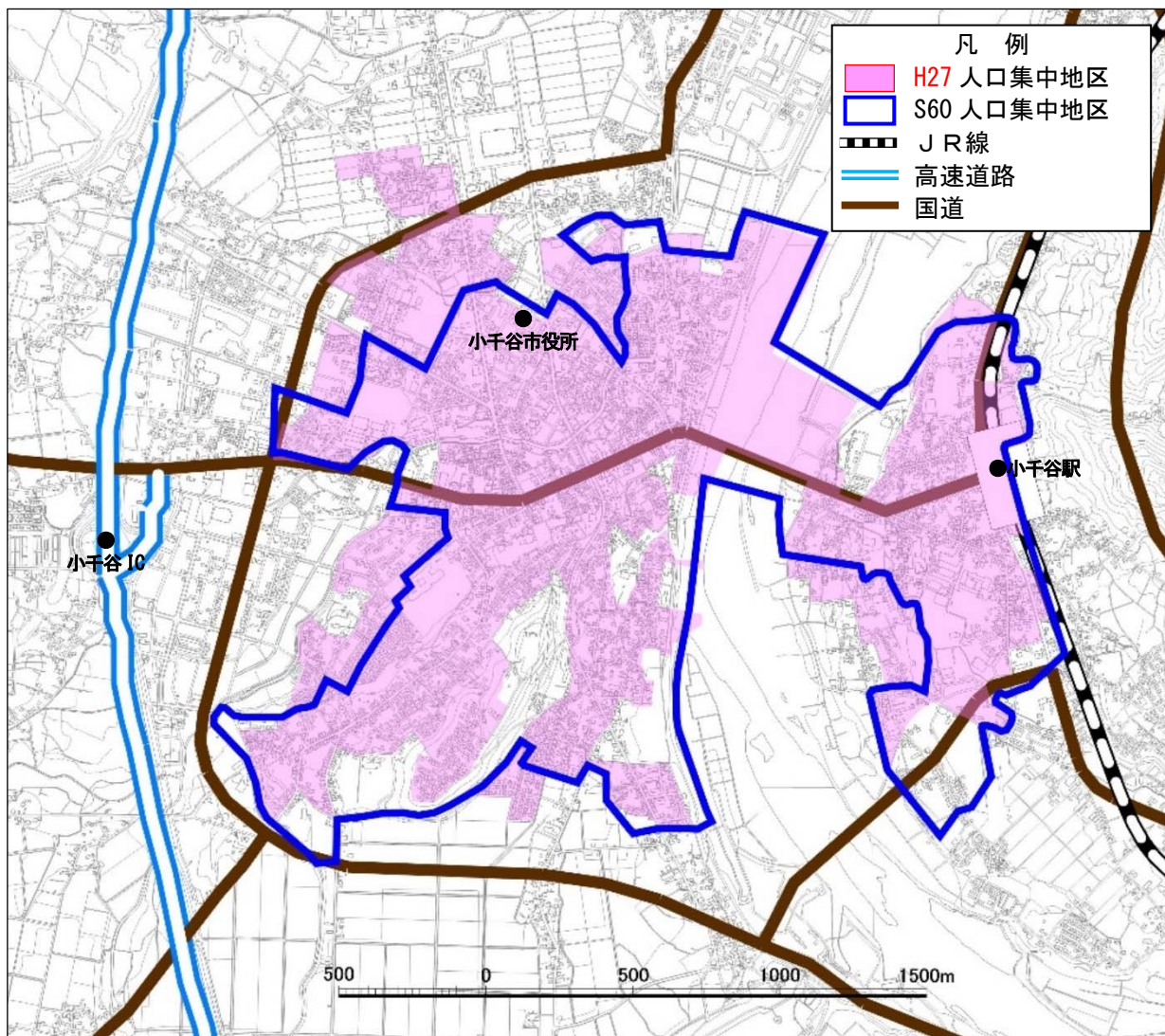
小千谷市の人口集中地区は昭和 60 年に初めて設定され、以降、区域の変化はあるものの面積としては大きな変化なく現在に至っています。

また、人口集中地区内の人口密度は近年減少傾向にあり、平成 27 年は人口集中地区の設定基準である 4,000 人/㎢(40 人/ha)を初めて下回りました。

表一 小千谷市の人口集中地区の変遷（資料：国勢調査）

年次	人口(人)	面積(㎢)	人口密度(人/㎢)
S 60	14,961	3.3	4,534
H 2	15,070	3.6	4,186
H 7	14,837	3.3	4,496
H 12	14,253	3.2	4,454
H 17	14,097	3.3	4,272
H 22	13,342	3.3	4,043
H 27	12,520	3.2	3,950

図一 人口集中地区の区域図[昭和 60 年、平成 27 年]（資料：国土数値情報ダウンロードサービス）



(2) 小千谷市の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所によると、小千谷市の人口は、平成22年から令和22年までの30年間で10,230人減少すると推計されています。

また、少子高齢化が更に進み、令和22年には高齢化率が39.3%に達すると推計されています。

なお、65歳以上の高齢者人口は、64歳以下の人口が一貫して減少する中で令和2年まで増加を続け、その後減少傾向に転じると推計されています。

表一 小千谷市の将来人口推計（資料：国立社会保障・人口問題研究所）（単位：人）

年齢構成	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
0～14歳	5,073	4,615	4,254	3,840	3,471	3,238	3,068
15～64歳	22,587	20,532	18,816	17,673	16,791	15,534	14,146
65歳以上	10,940	11,945	12,403	12,243	11,718	11,410	11,156
総人口	38,600	37,092	35,473	33,756	31,980	30,182	28,370
高齢化率	28.3%	32.2%	35.0%	36.3%	36.6%	37.8%	39.3%

グラフ一 小千谷市の将来人口推計（資料：国立社会保障・人口問題研究所）

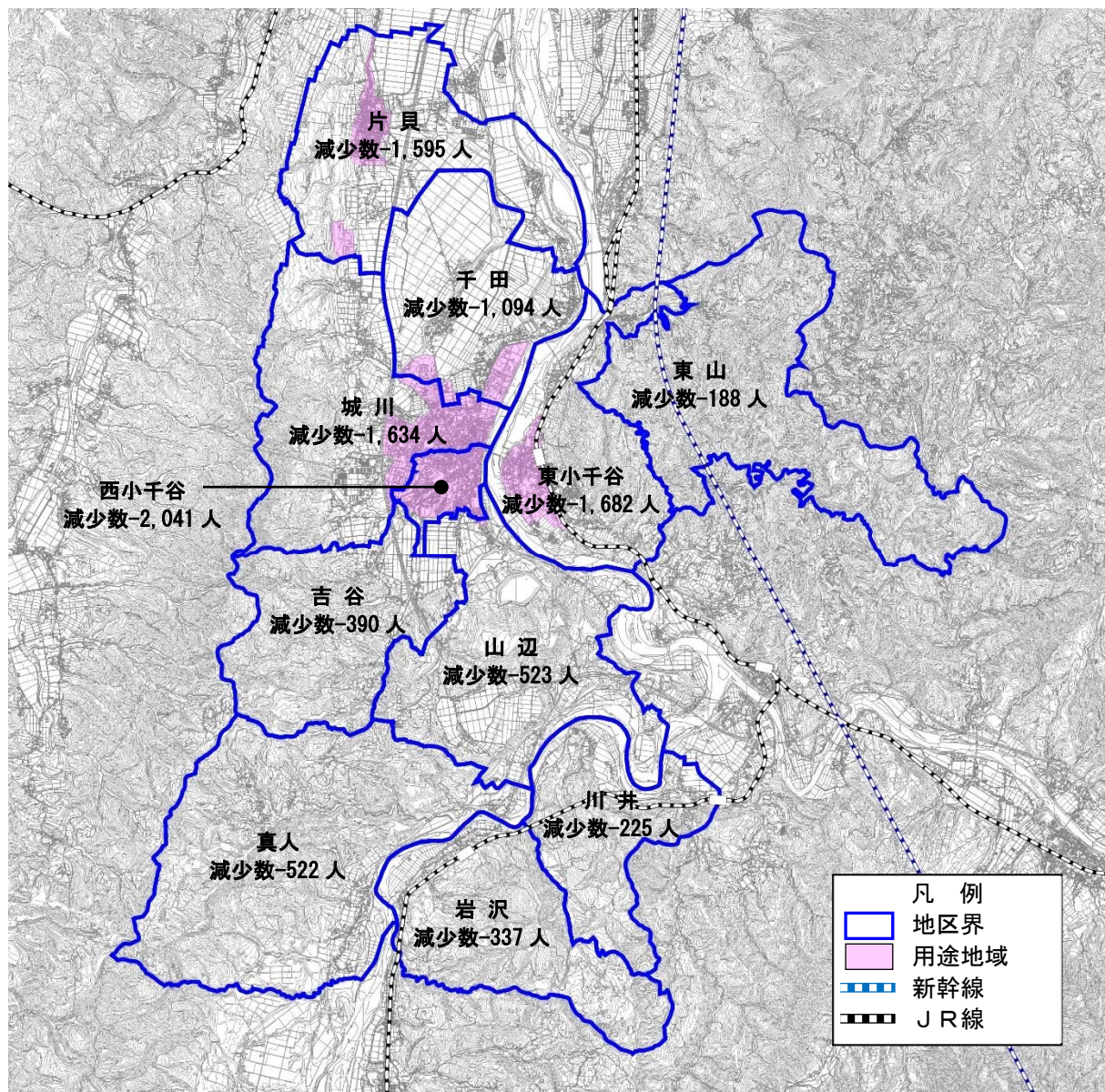


地区別の将来人口推計によると、平成22年から令和22年にかけての減少率は、川井、東山、岩沢、真人といった中山間地域が高い状況です。一方で、用途地域が位置する西小千谷、東小千谷、城川、千田、片貝では、中山間地域より減少率は低いものの、減少数は1,000人を超えています。

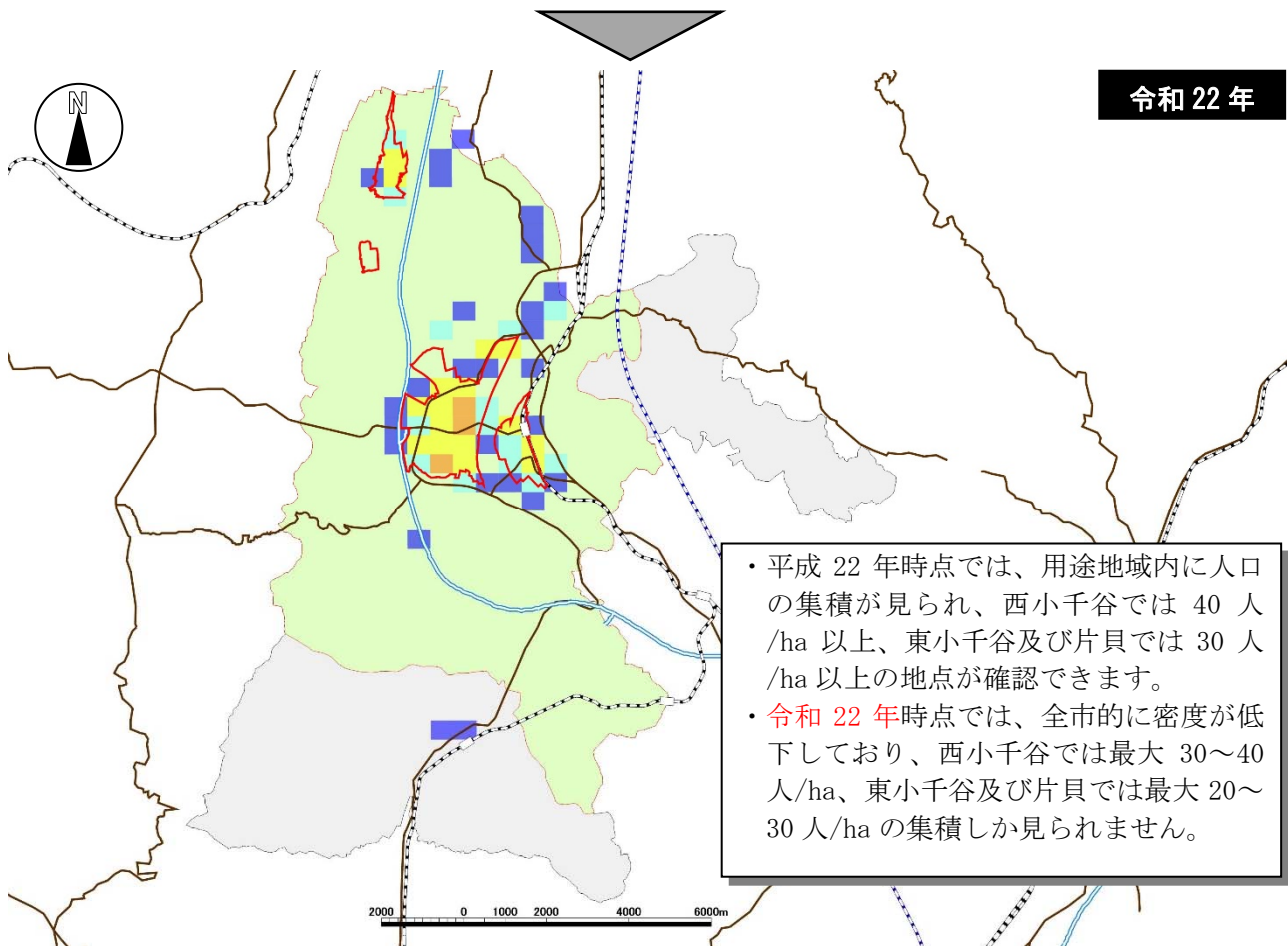
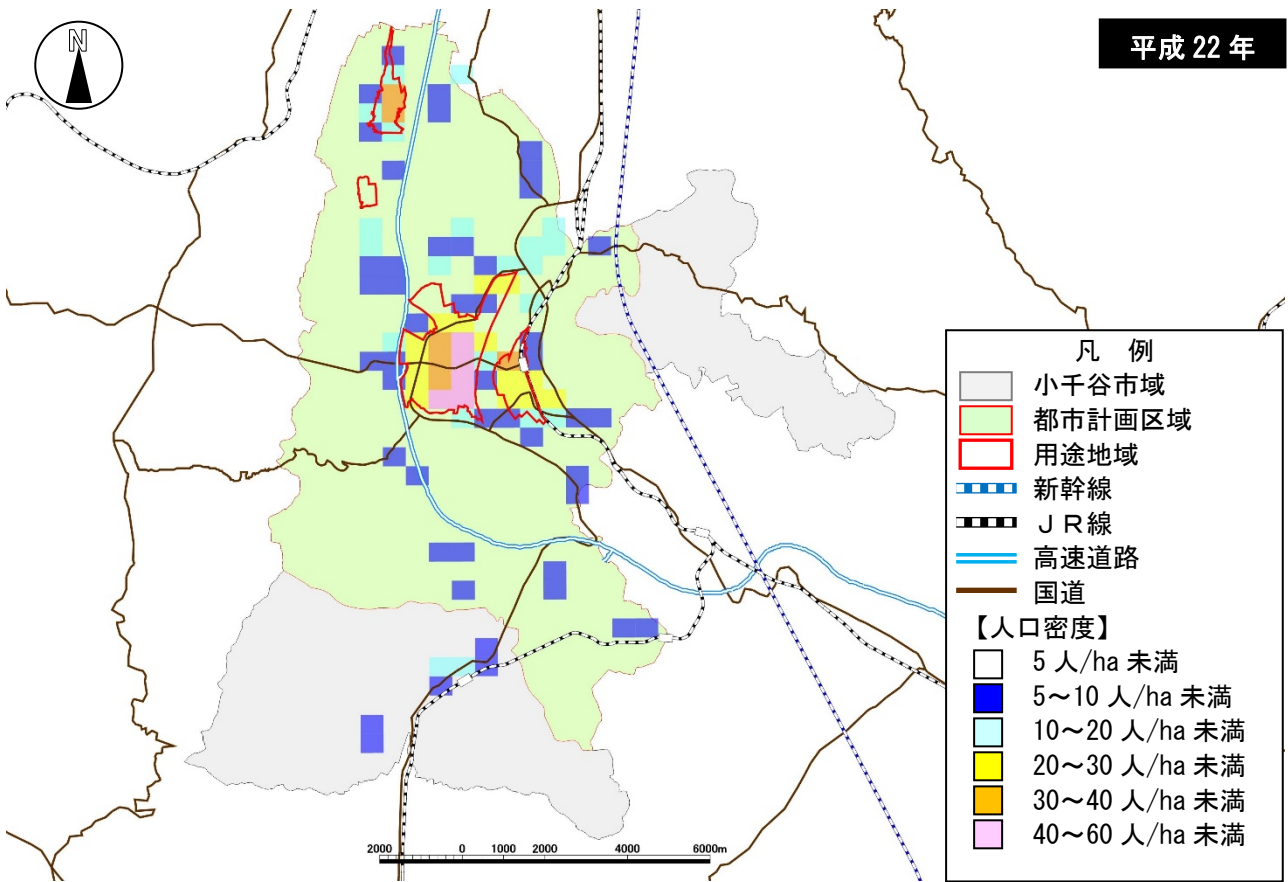
表一地区別の将来人口推計（資料：国立社会保障・人口問題研究所）（単位：人）

地区名	H22年	R22年	H22年⇒R22年	
			減少数	減少率
西小千谷	6,973人	4,932人	-2,041人	29.27%
東小千谷	6,799人	5,117人	-1,682人	24.74%
山辺	1,607人	1,084人	-523人	32.53%
吉谷	1,326人	936人	-390人	29.39%
城川	9,011人	7,377人	-1,634人	18.13%
千田	4,165人	3,071人	-1,094人	26.26%
川井	581人	356人	-225人	38.66%
東山	530人	342人	-188人	35.47%
岩沢	907人	570人	-337人	37.21%
真人	1,378人	856人	-522人	37.91%
片貝	5,323人	3,728人	-1,595人	29.96%
合計	38,600人	28,370人	-10,230人	26.50%

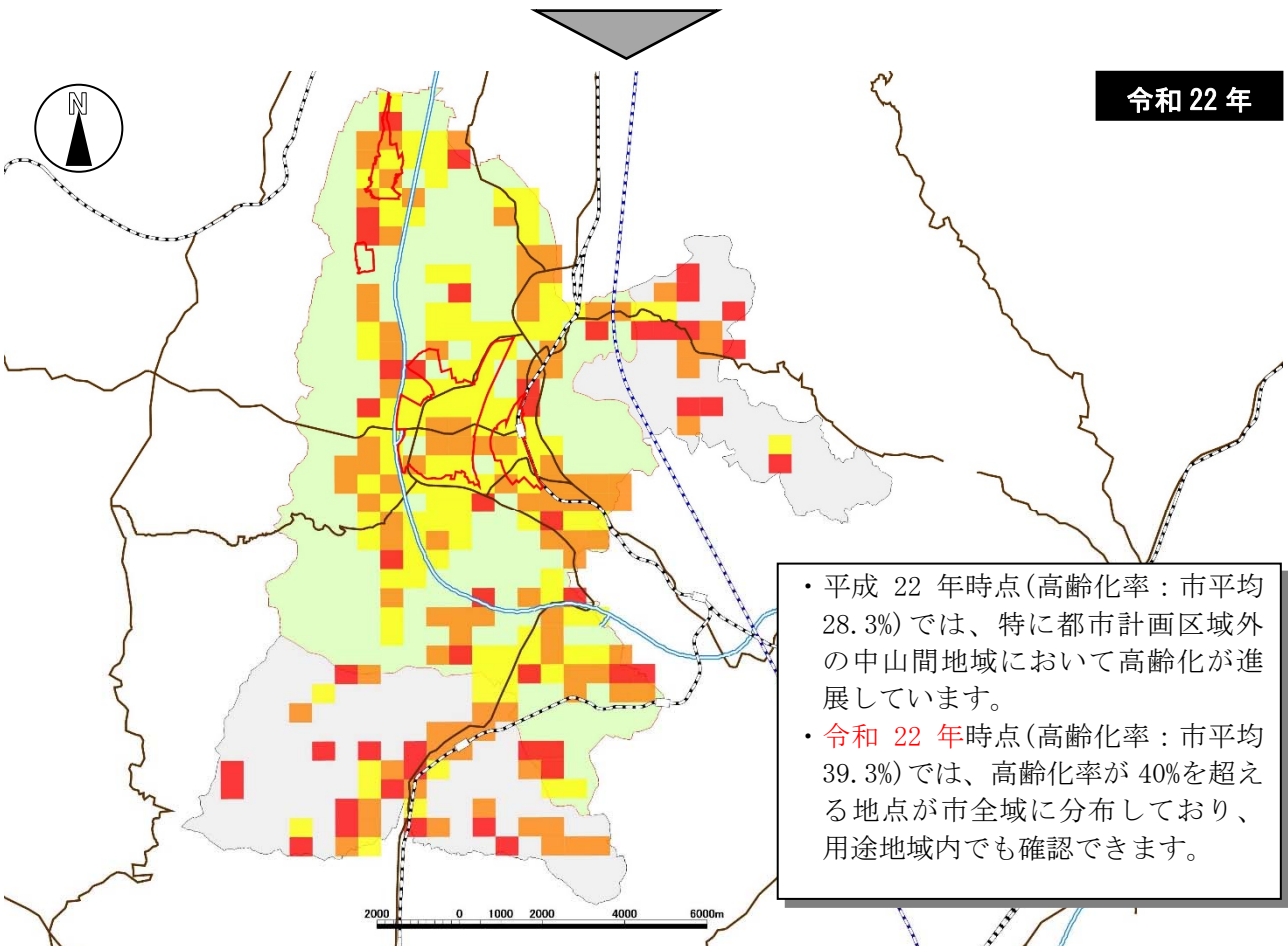
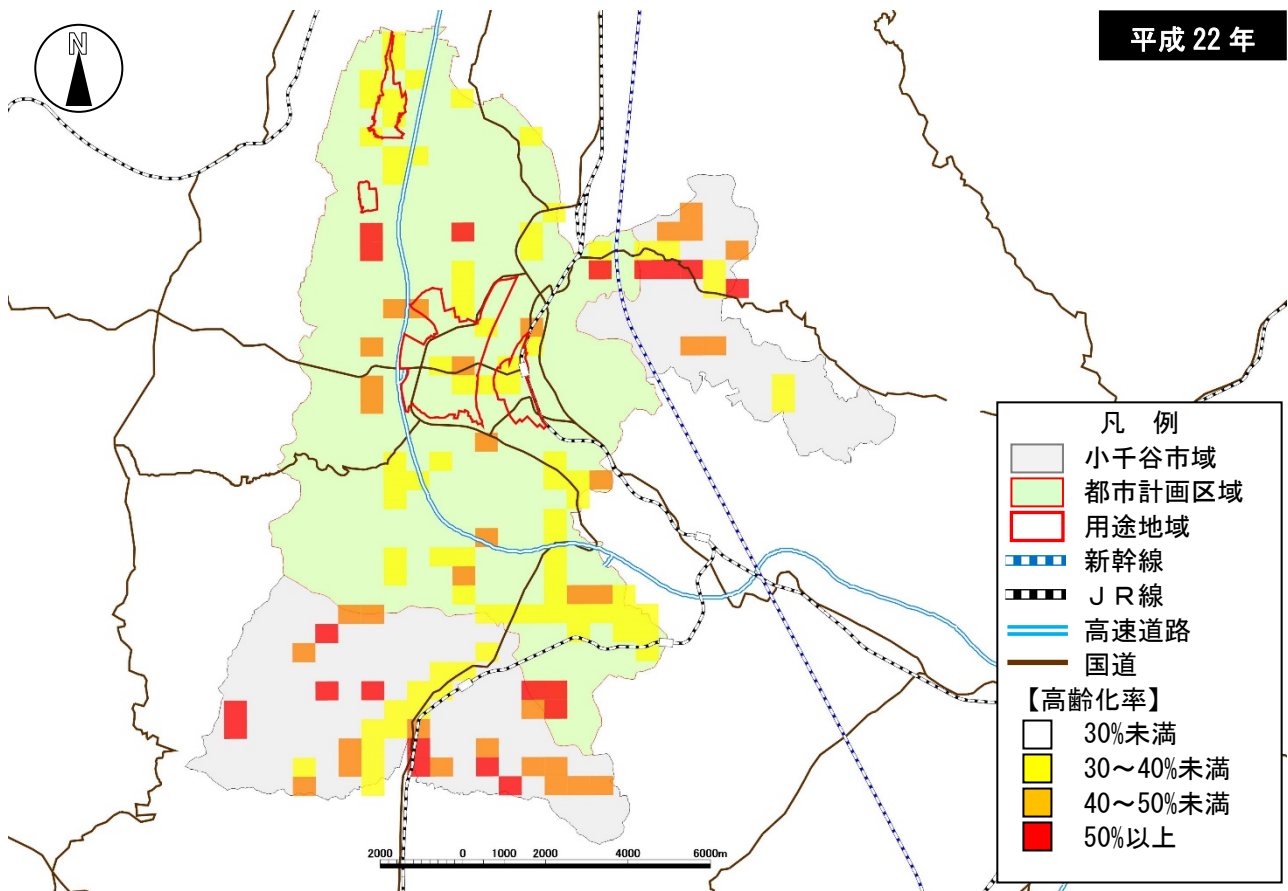
図一地区別の人口増減の推計（平成22年⇒令和22年）



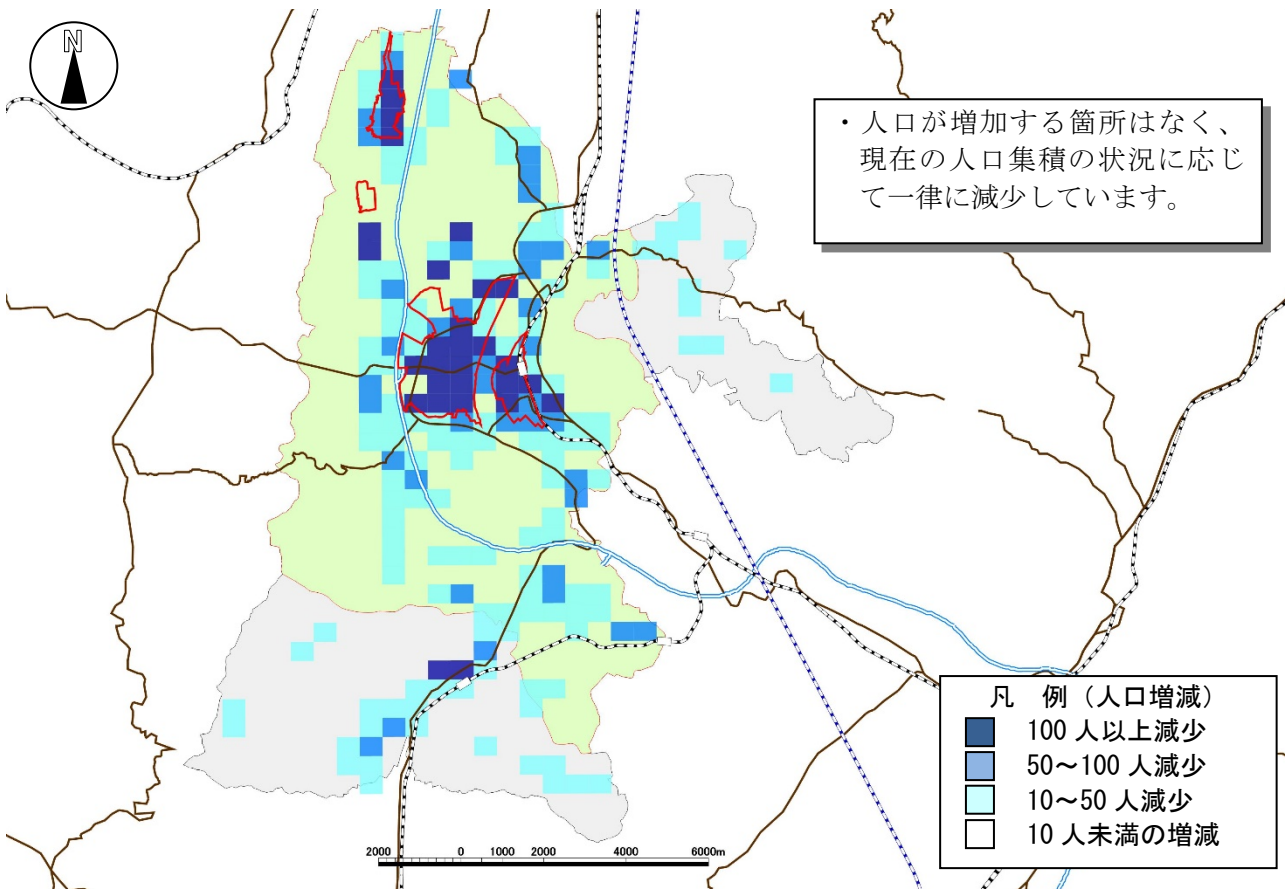
図一人口密度の変化（2分の1地域メッシュ毎の人口推計に基づく結果）



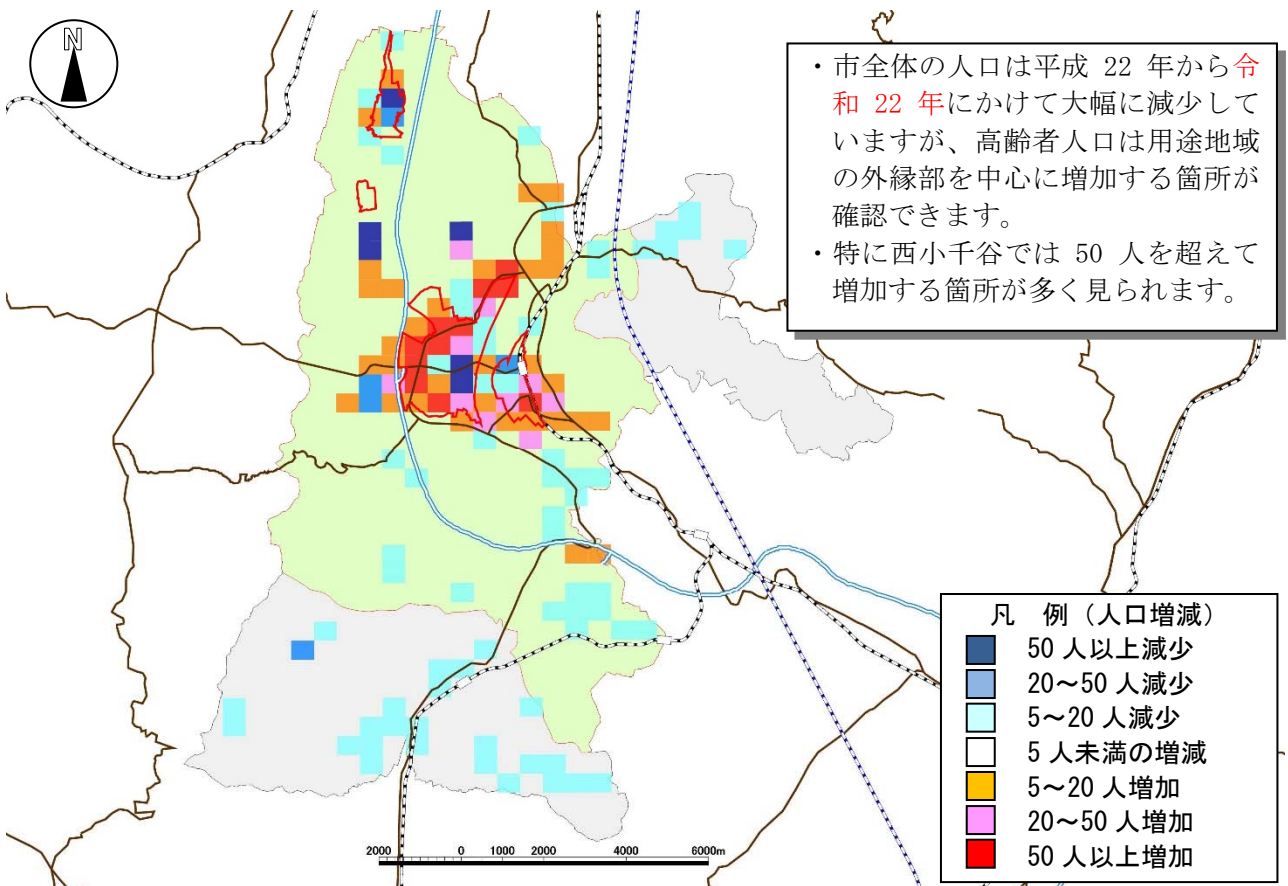
図一 高齢化率の変化（2分の1地域メッシュ毎の人口推計に基づく結果）



図一人口増減の推計（平成 22 年⇒令和 22 年）



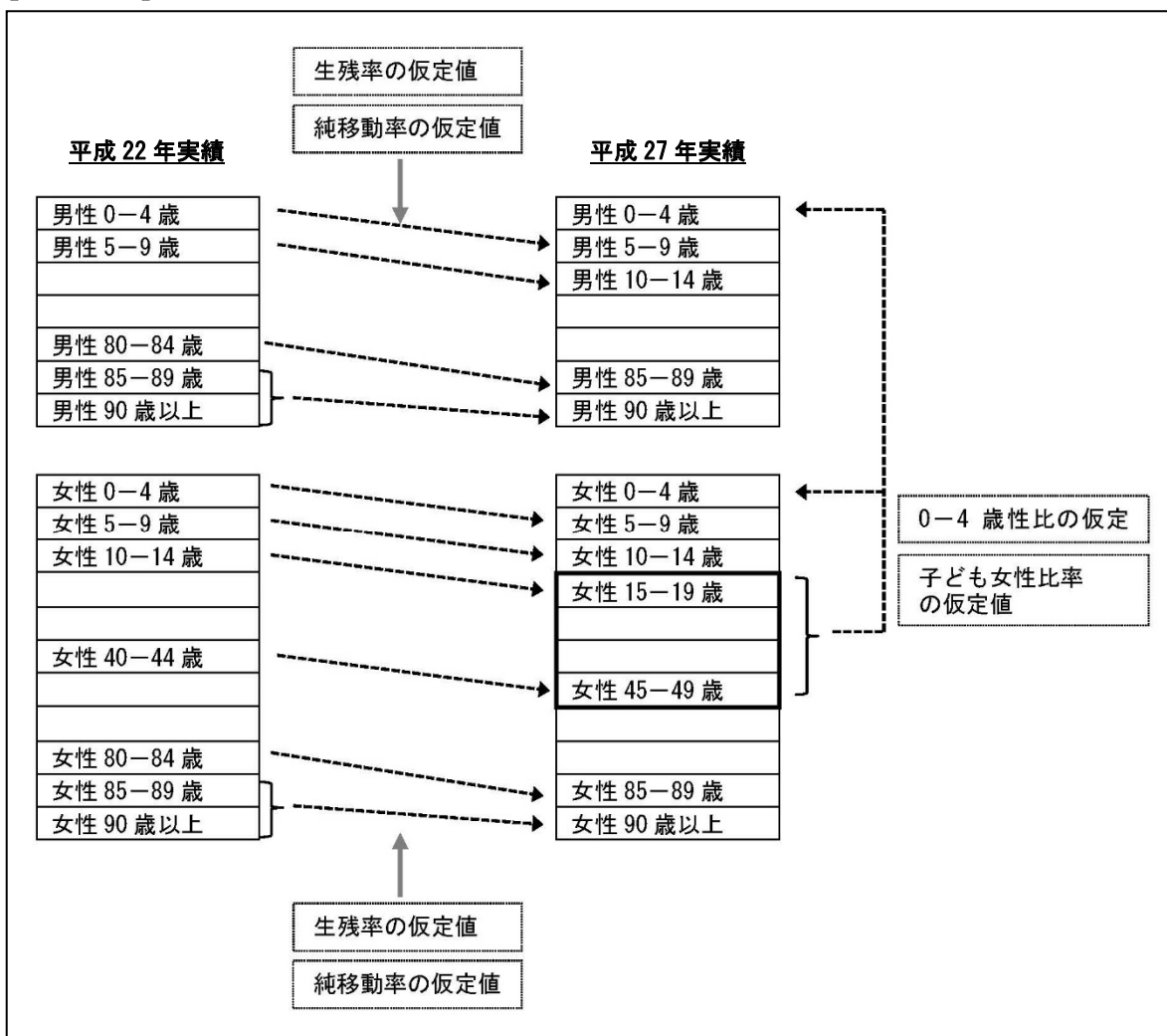
図一高齢者人口増減の推計（平成 22 年⇒令和 22 年）



(参考) メッシュ (一辺 500m) 毎の人口推計の方法

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所が5年刻みで値を公表している男女年齢(5歳)階級別の生存率、純移動率、子ども女性比、0-4歳性比を用いて、対象メッシュの男女別・5歳階級別人口を5年刻みで推計
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に推計した市全体の将来推計人口値をコントロールトータルとし、対象メッシュの人口を一律に補正

【計算手順】



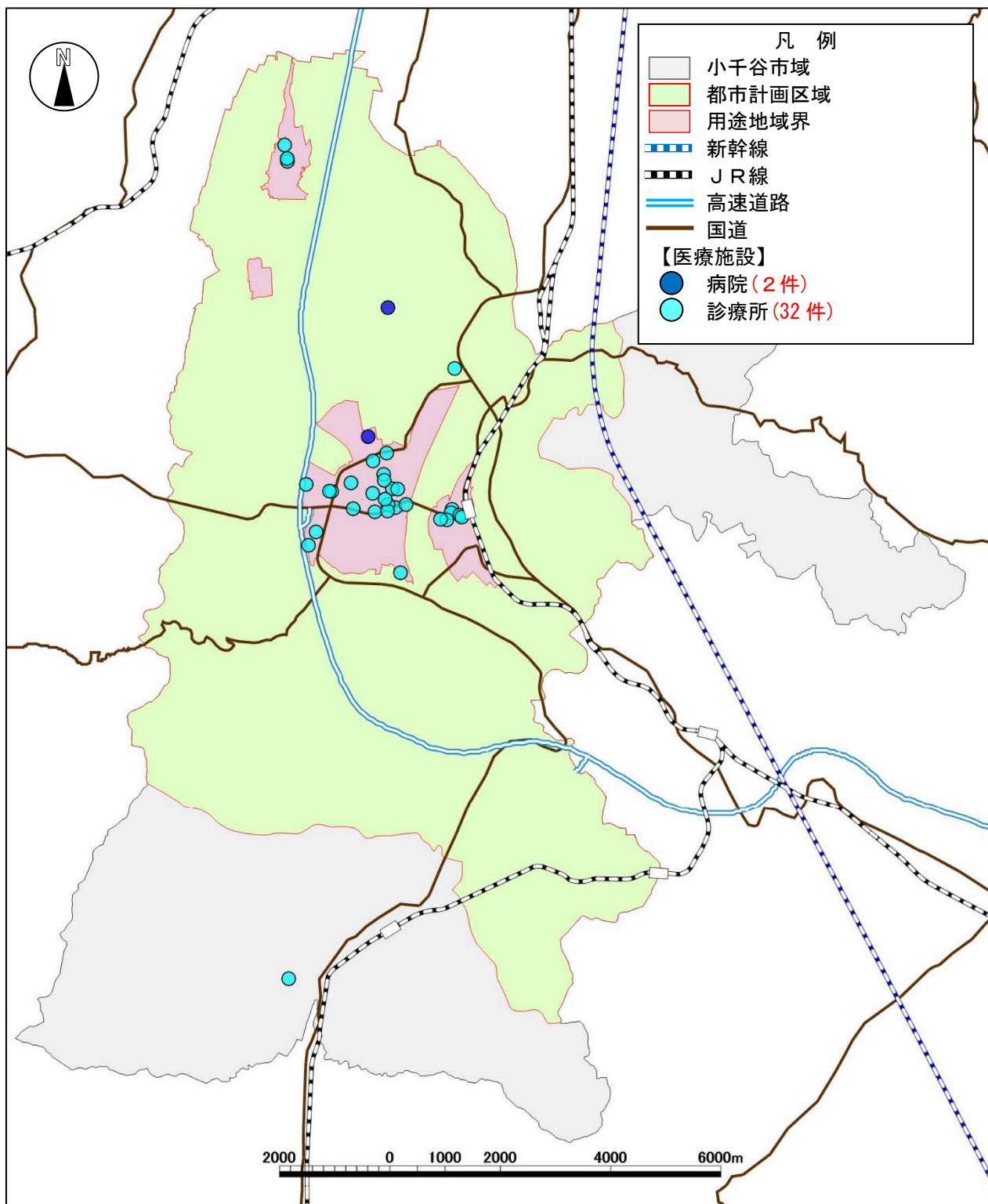
- ・ なお、秘匿対象地域メッシュの各値は、合算先地域メッシュと同等と仮定
 - ※秘匿対象地域メッシュとは、人口等の調査対象が極めて少なく、その地域の個人的な情報が推測できてしまう恐れがあるため、数値を公表していない地域メッシュ
 - ※合算先地域メッシュとは、秘匿対象地域メッシュの値を合算している近隣の地域メッシュ

(3) 都市機能の立地状況

① 医療施設

医療施設は用途地域内に集積しています。平成 29 年 4 月には、(公財)小千谷総合病院と厚生連魚沼病院の統合に伴い、平沢地区に厚生連小千谷総合病院が開院しました。

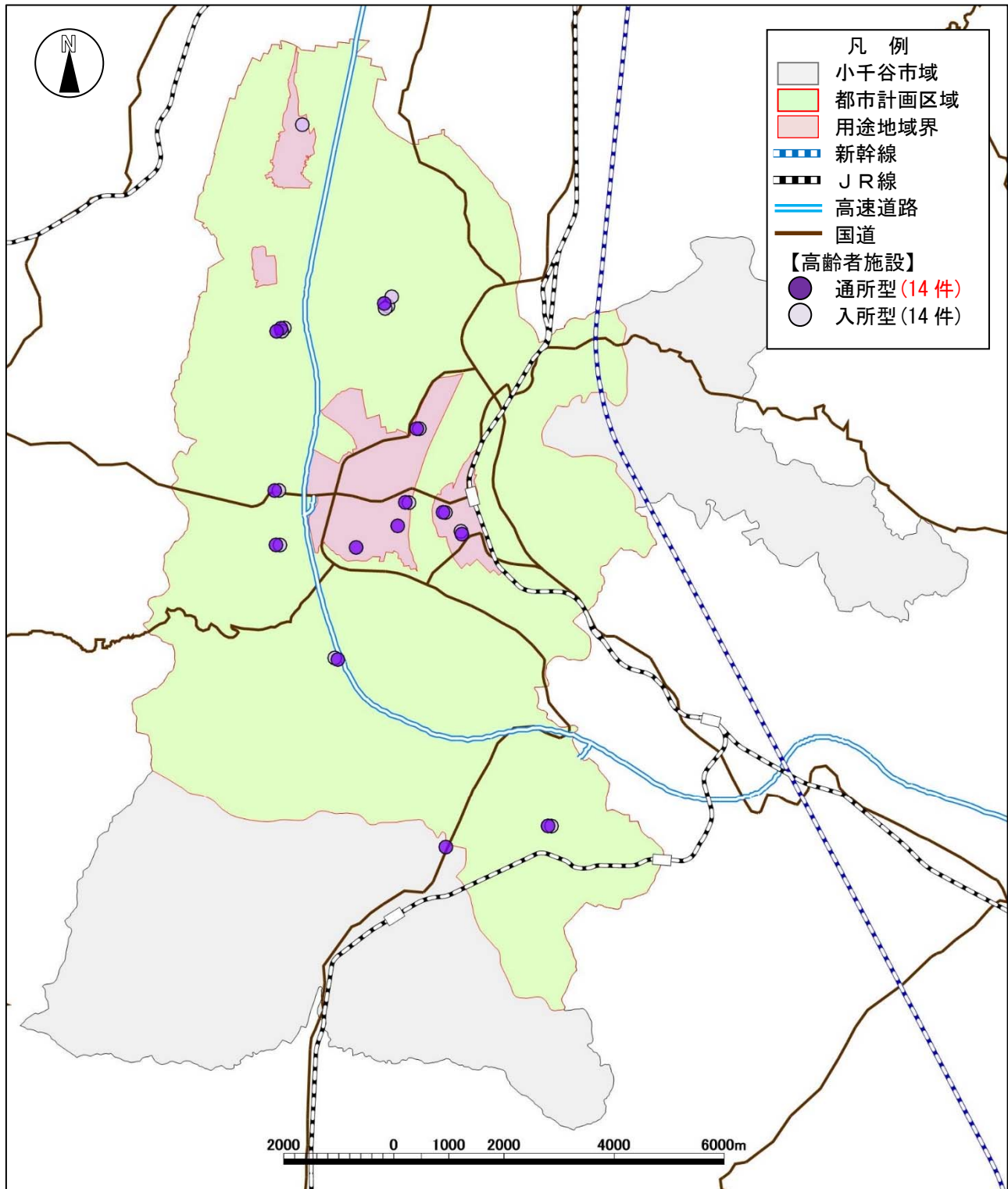
図－医療施設の分布状況



② 高齢者施設

高齢者施設は通所型と入所型が併設された施設が多く、用途地域を中心に市内に分散しています。

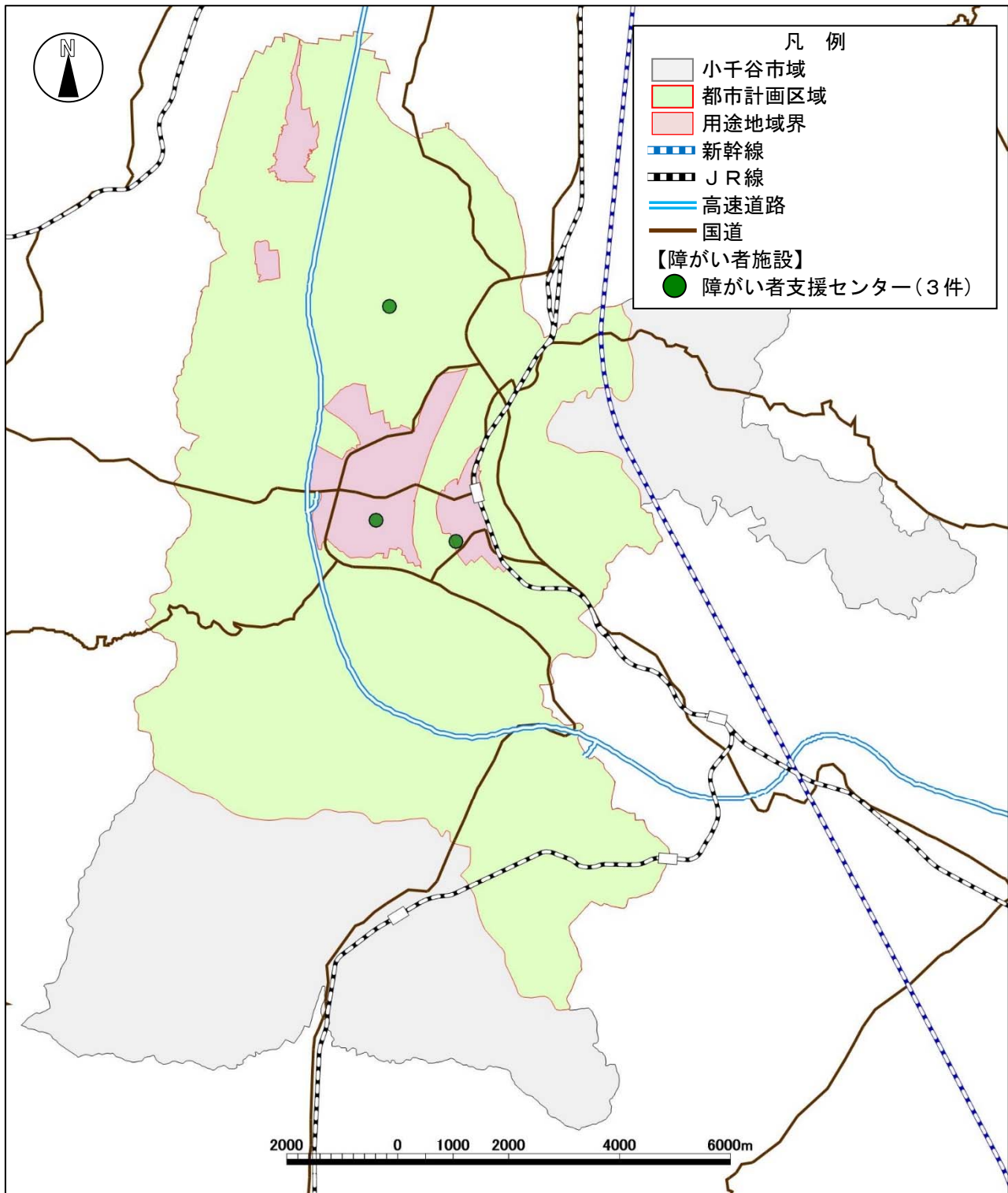
図一 高齢者施設の分布状況



③ 障がい者施設

障がい者施設のうち、障がい者支援センターが市内に3施設あり、そのうち、2施設が用途地域内に立地しています。

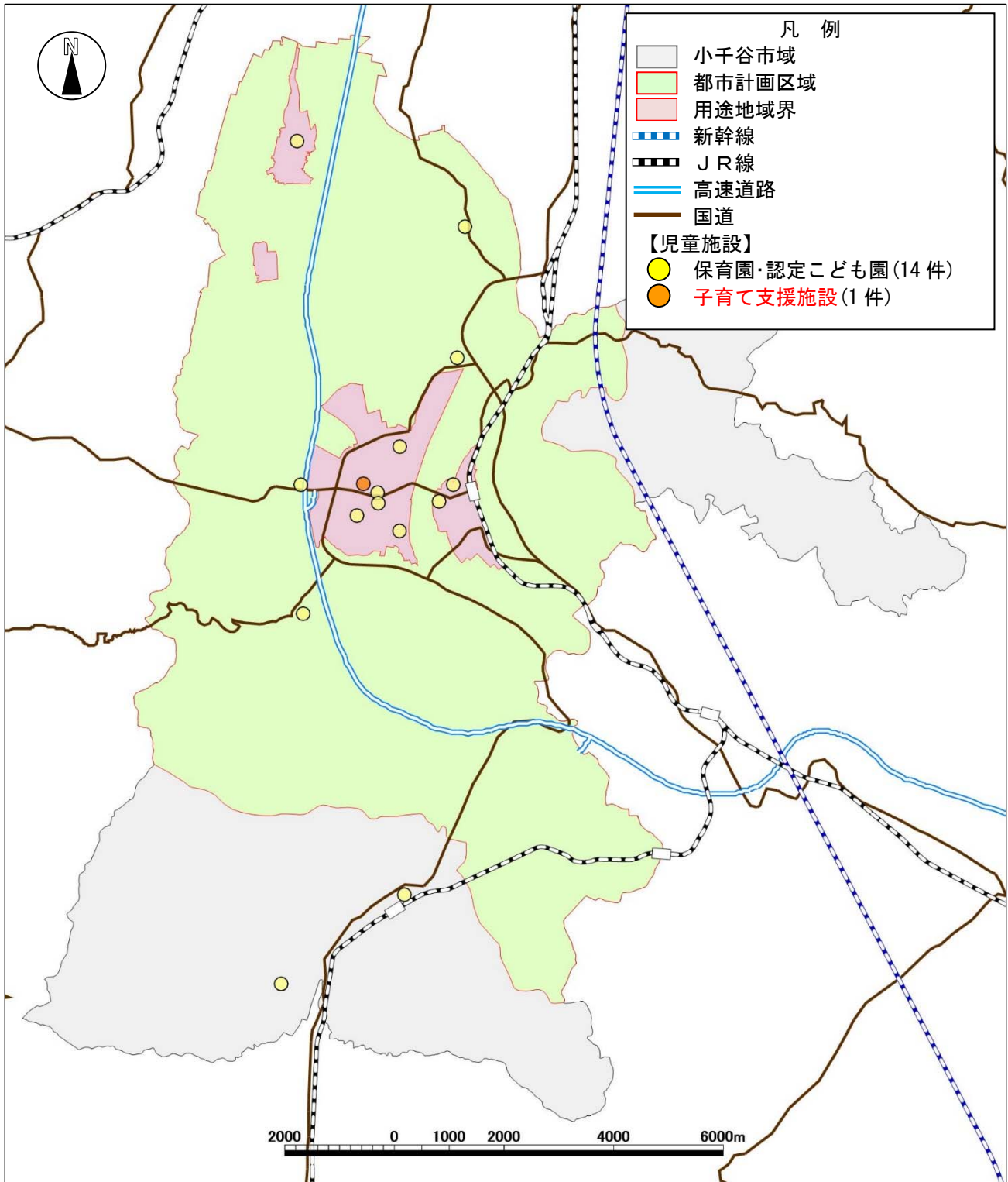
図－障がい者施設の分布状況



④ 児童施設

児童施設は人口が集中する用途地域内に集積しています。

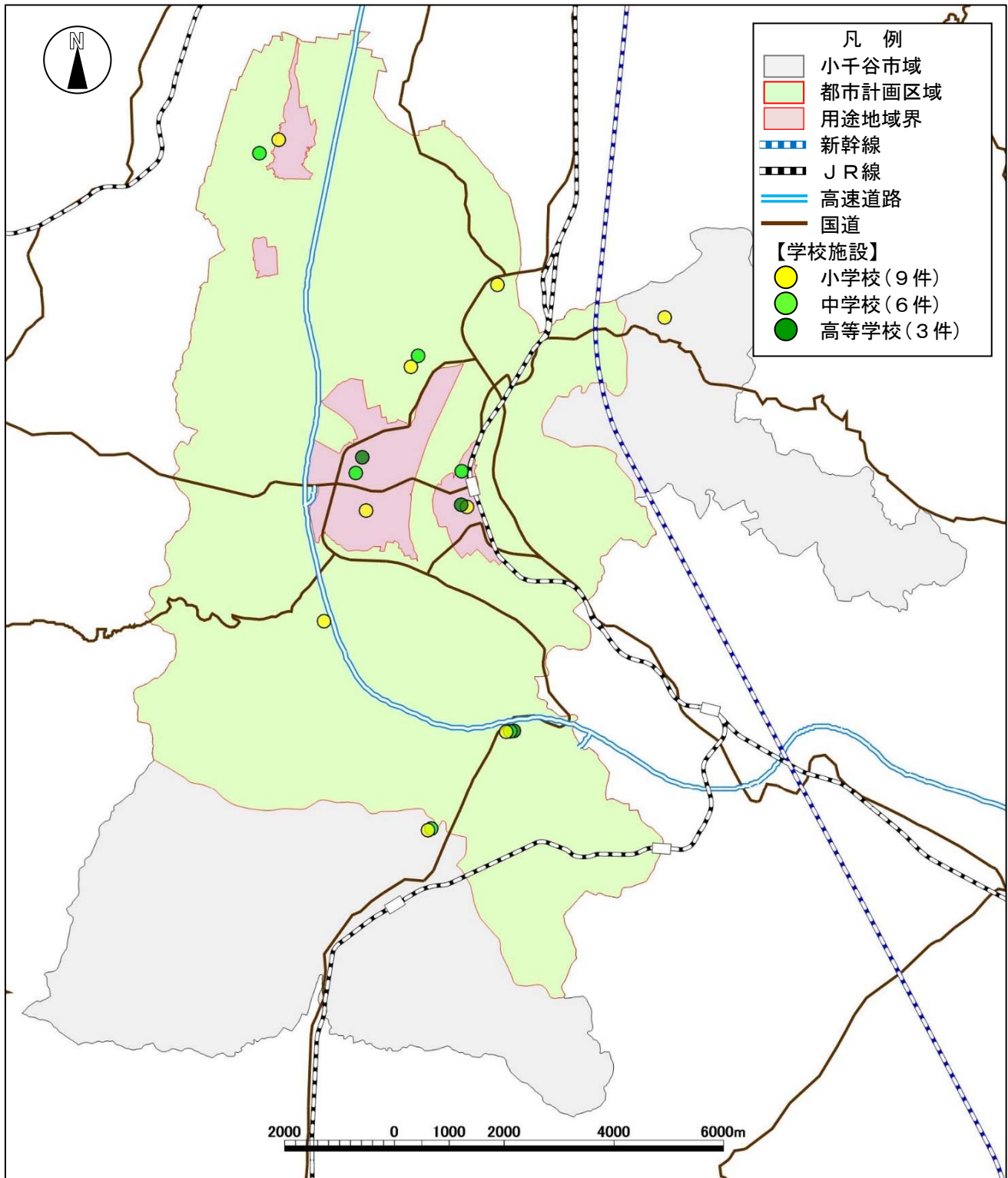
図－児童施設の分布状況



⑤ 学校施設

小・中学校は地区ごとに均衡に配置されています。また、高等学校は用途地域内に立地しています。

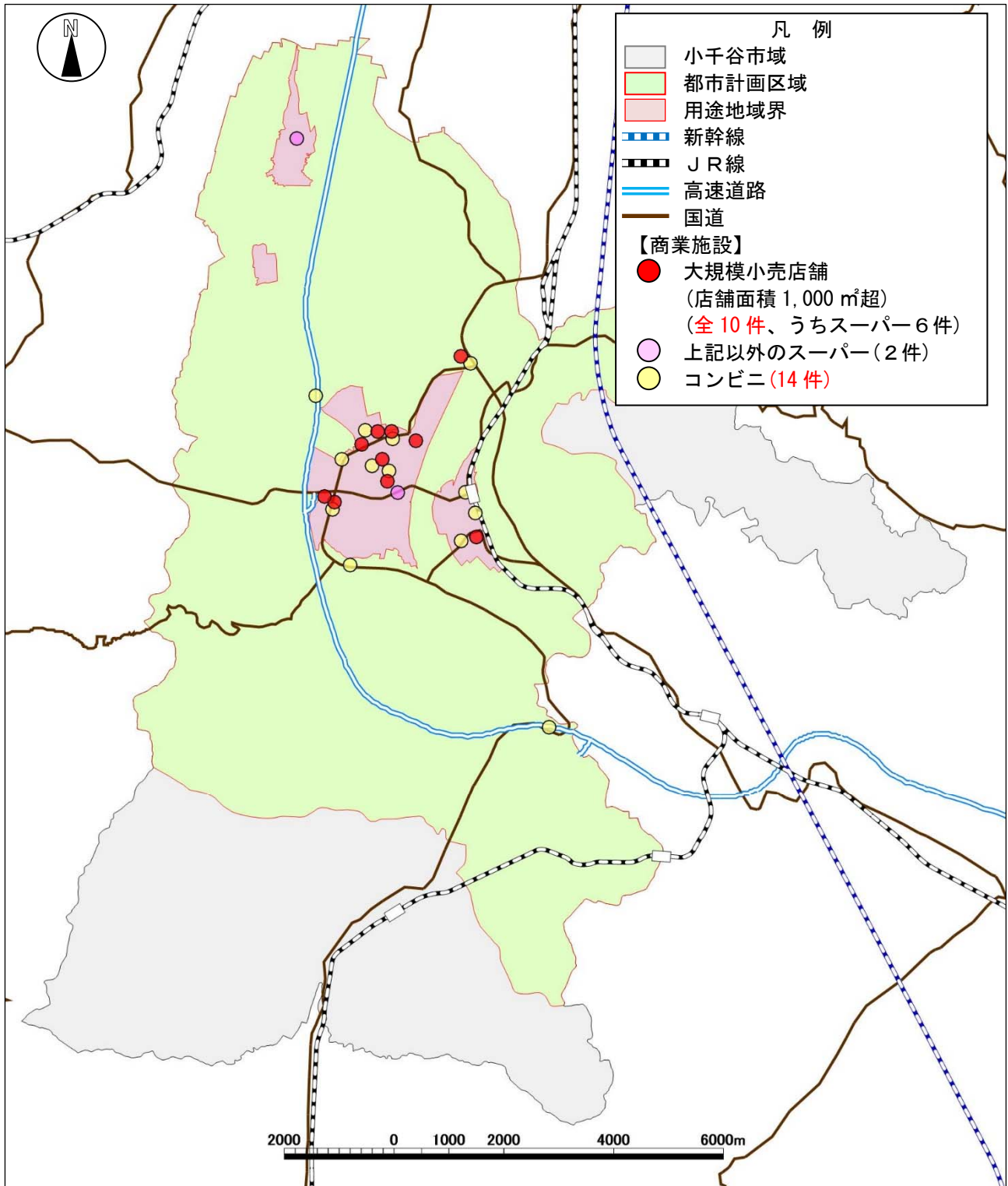
図一 学校施設の分布状況



⑥ 商業施設

商業施設は特に西小千谷、東小千谷の用途地域内に集積しています。また、大規模小売店舗(店舗面積 1,000 m²超)は国道 117 号沿いにその多くが立地しています。

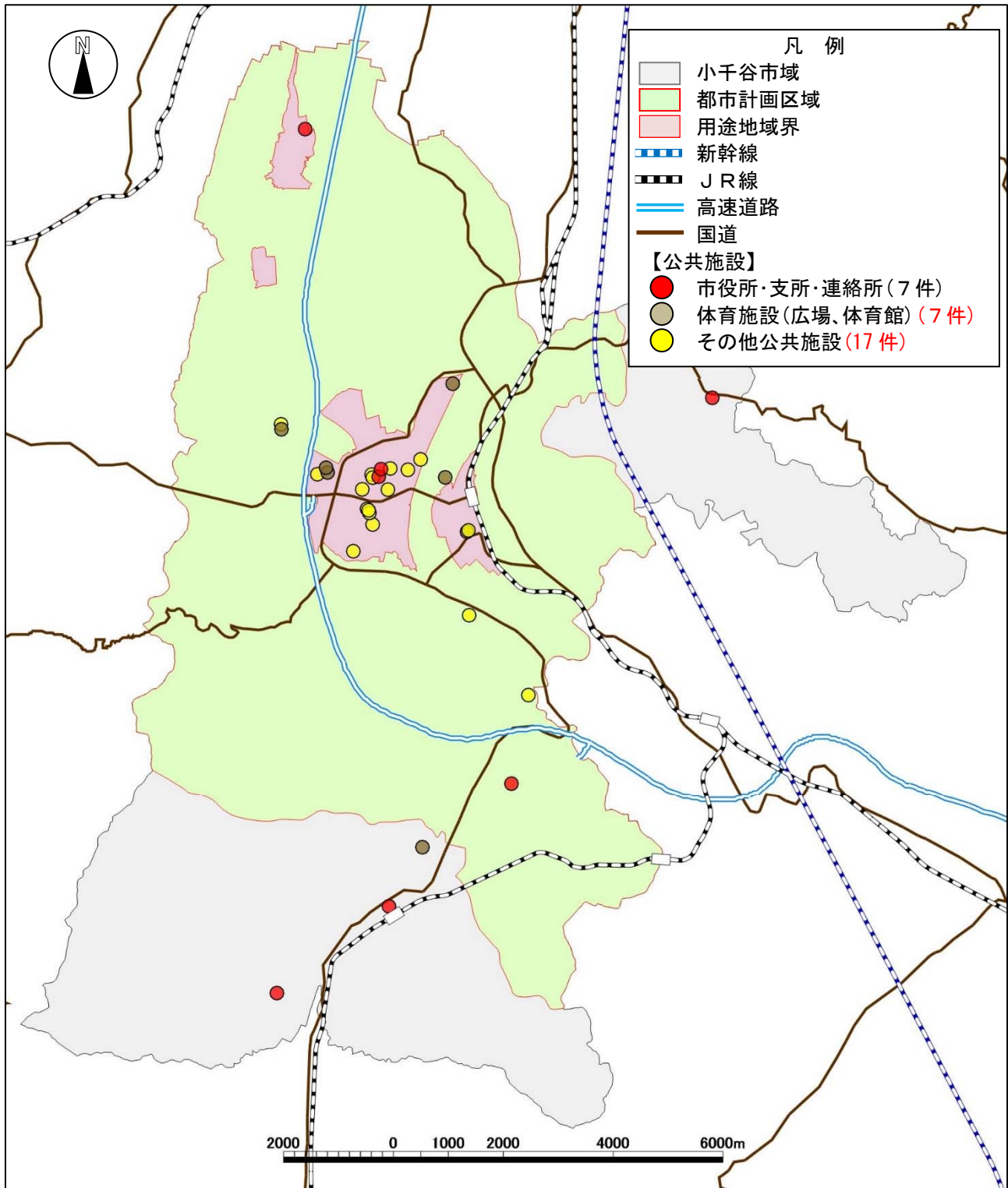
図一 商業施設の分布状況



⑦ 公共施設

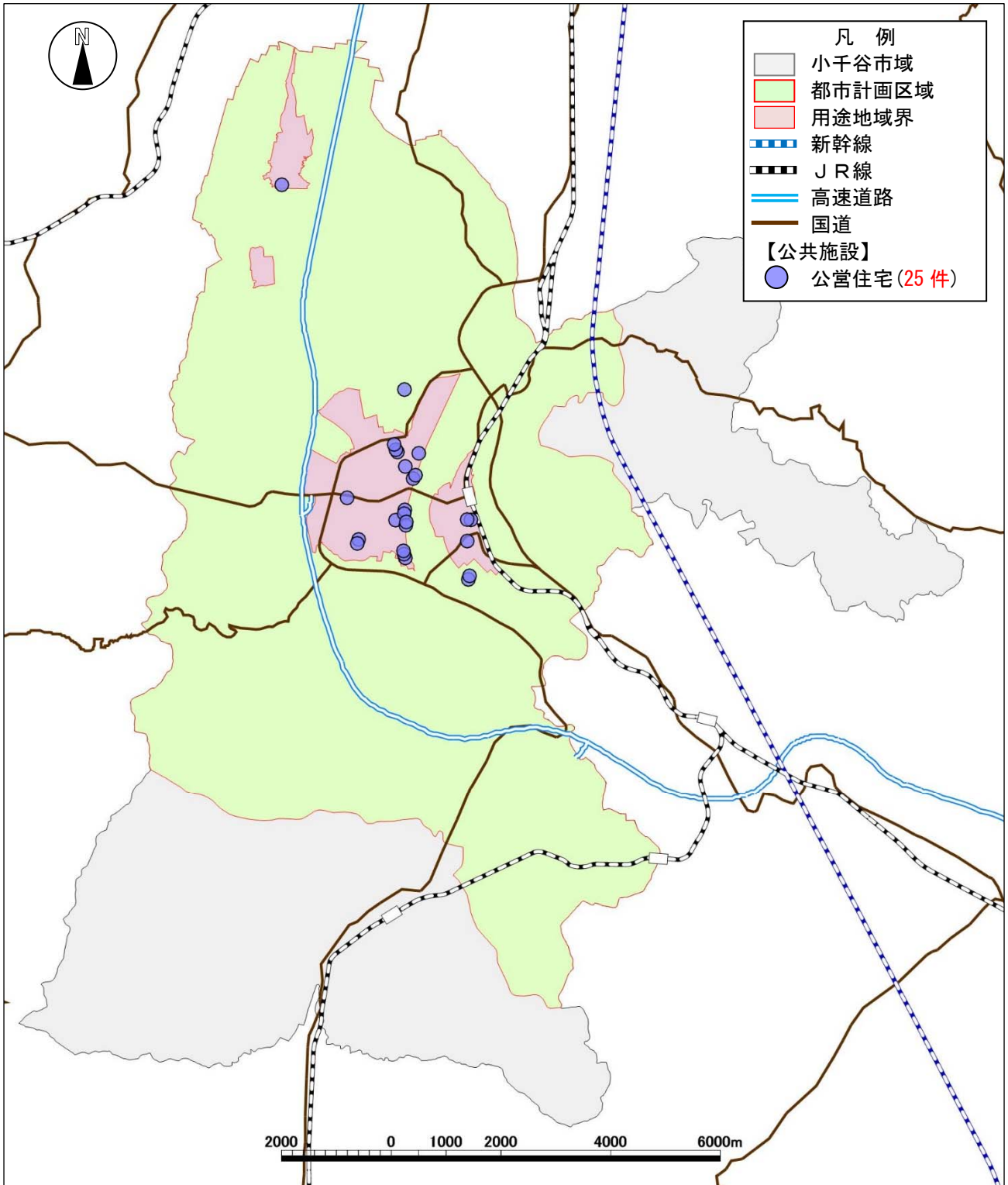
公共施設は市民の利便性に配慮して、用途地域内を中心に市内に適宜配置されています。

図一 公共施設（公営住宅を除く）の分布状況



公営住宅は用途地域内に集積しています。

図一 公営住宅の分布状況

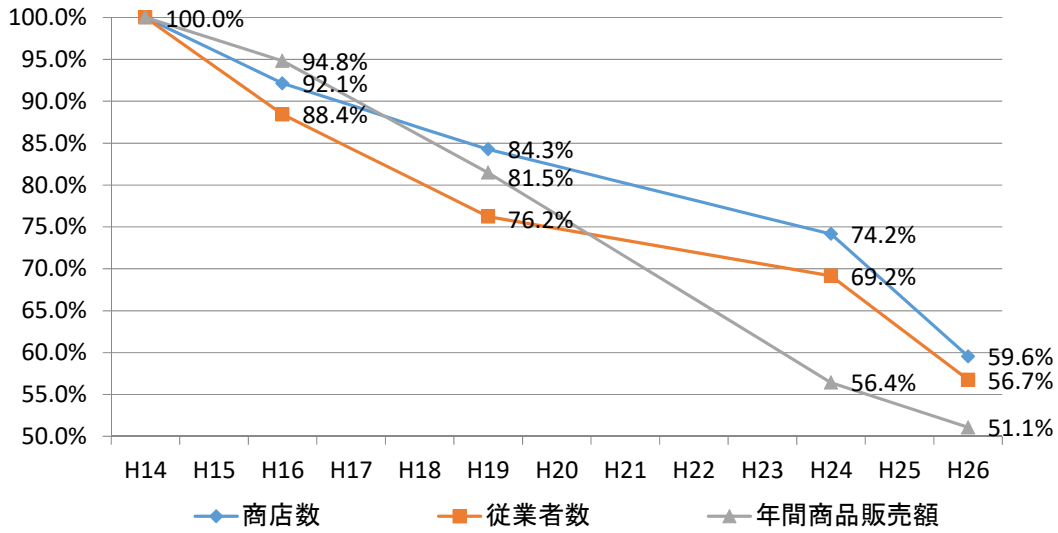


(4) 商業の状況

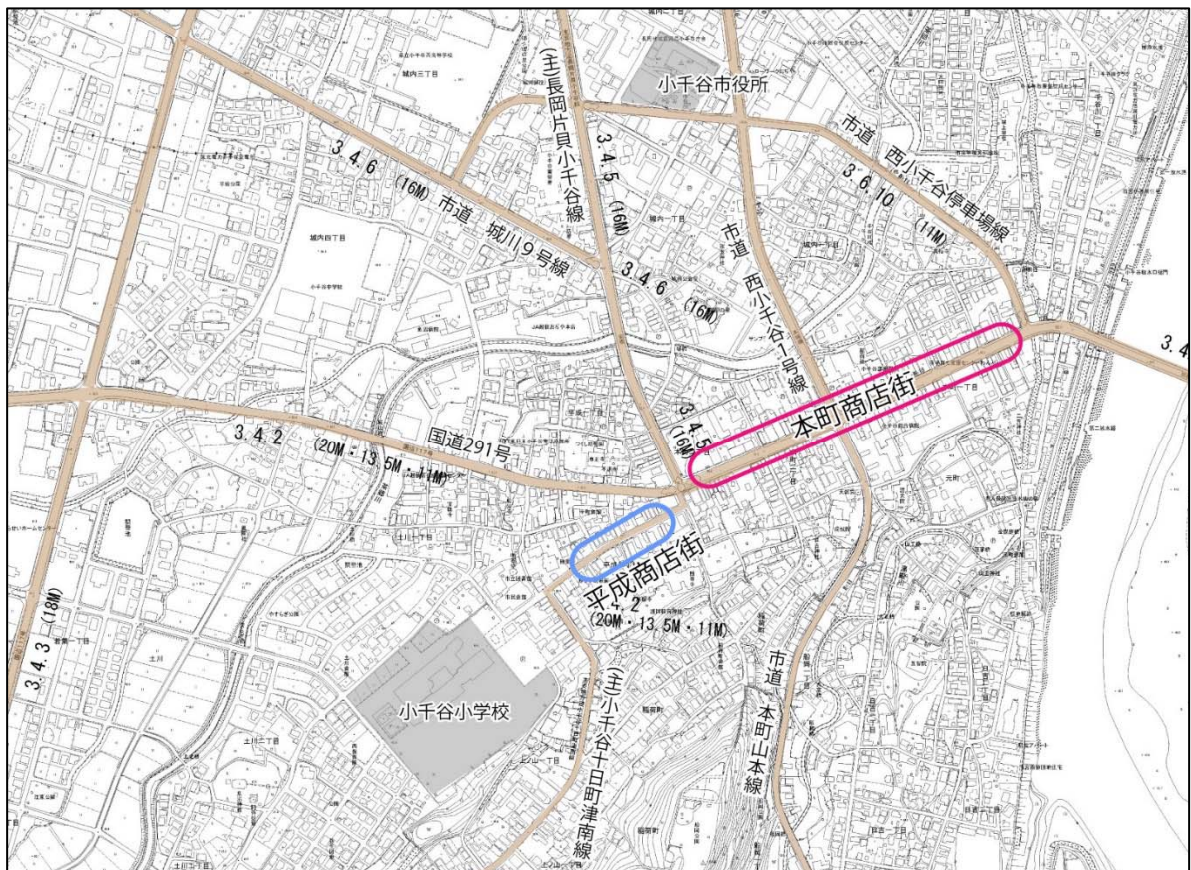
用途地域内には商業施設をはじめとする様々な都市機能が集積していますが、小千谷市の中心市街地を構成する本町商店街及び平成商店街の商店数、従業者数、年間商品販売額の推移をみると、全てが減少傾向にあり、特に近年は減少幅が大きく、商店街の衰退が継続的かつ急速に進んでいることが窺えます。

グラフー本町商店街及び平成商店街の商店数等の推移

(資料：商業統計調査(H14、16、19、26年)、経済センサス(H24))



図一商店街の位置



(5) 公共交通の状況

① 鉄道

市内には、JR 上越線の小千谷駅、JR 飯山線の内ヶ巻駅、越後岩沢駅の3つの駅があります。

小千谷駅は平成 26 年度時点の乗車人員が年間約 45 万人(約 1,200 人/日)、定期利用者が8割近くを占め、通勤・通学等の日常的な交通手段として利用されています。また、乗車人員の推移をみると、平成 26 年に減少に転じているものの、中越大震災以降は概ね右肩上がり推移しており、現在は震災前の同程度の水準となっています。

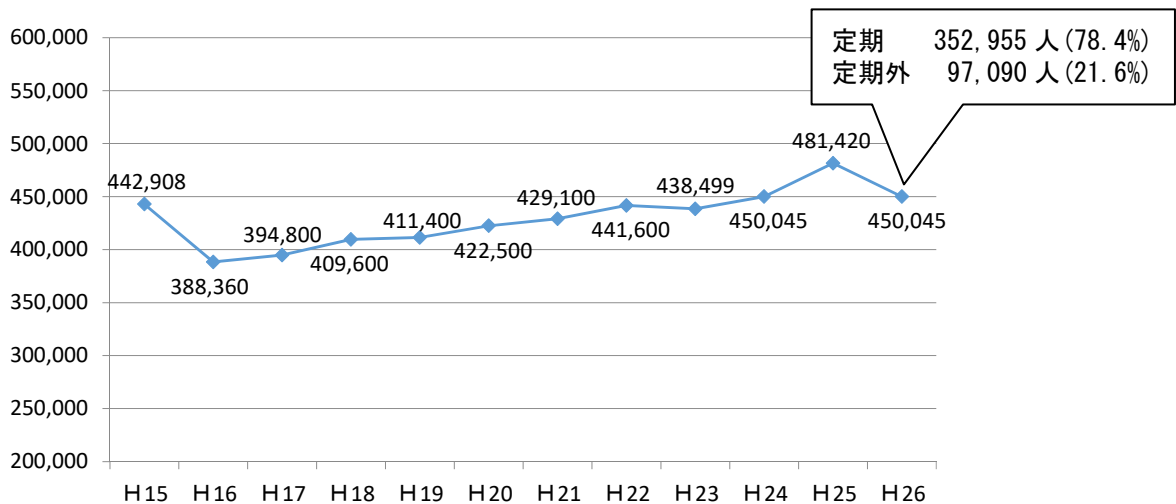
内ヶ巻駅は平成 22 年度時点の乗車人員が年間 3,500 人(約 10 人/日)と少なく、震災後から一貫して減少傾向にあります。

越後岩沢駅も同様に乗車人員が年間 6,600 人(約 18 人/日)と少なく、増加傾向にあったものの震災前の水準には程遠い状況です。

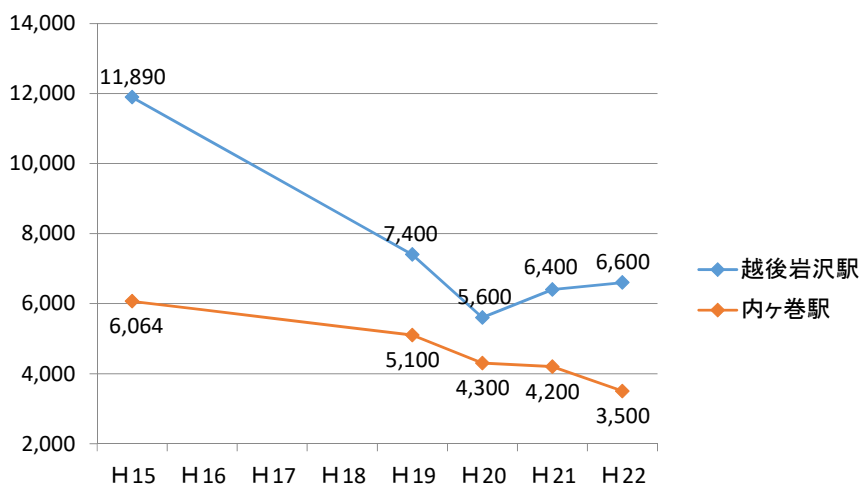
表一 小千谷市内の鉄道駅の概要 (平成 28 年 1 月時点)

駅名	路線	便数/日(上下合計)	ピーク時3本以上(片側)
JR 小千谷駅	JR 上越線	34	有(7時台)
JR 越後岩沢駅	JR 飯山線	20	無
JR 内ヶ巻駅	JR 飯山線	20	無

グラフーJR 小千谷駅の乗車人員の推移 (資料：小千谷市統計書)



グラフーJR 内ヶ巻駅、越後岩沢駅の乗車人員の推移 (資料：小千谷市統計書)



② 路線バス

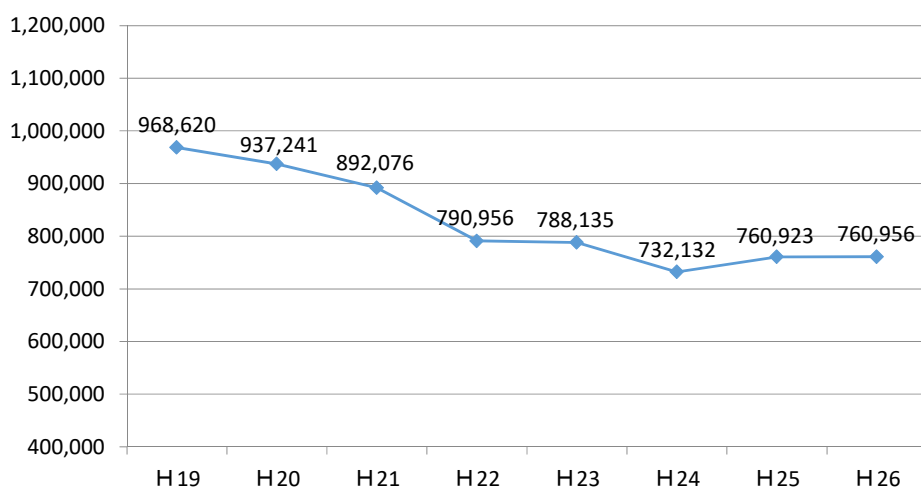
市内の路線バスは、民営路線バス 2 社が幹線道路を中心に 8 の系統により運行しており、全ての系統が小千谷市の中心市街地に位置する本町を經由しています。

路線バスの利用者は、平成 24 年度までは一貫して減少傾向にありましたが、平成 25 年度にかけて増加傾向に転じました。しかし、路線バス沿線では今後人口減少が進むため、路線バスを取り巻く環境は厳しくなることが予想されます。

表一 小千谷市内の路線バスの概要（令和 2 年 4 月時点）

事業者	系統名	便数/日 (上下合計)
越後交通(株)	①十日町-小千谷-長岡駅前線	33
	②小千谷車庫前-片貝-来迎寺-免許センター-長岡駅前線	31
	③小千谷車庫前-小千谷総合病院-三仏生-北五辺-池津線	6
	④循環線(小千谷総合病院発着)	8
	⑤小千谷(小千谷総合病院)-浦柄-岩間木-塩谷線	8
	⑥小千谷-川西-十日町線	22
	⑦小千谷車庫前-総合体育館入口-小国線	8
南越後観光バス(株)	⑧小千谷(小千谷総合病院)-川口-小出線	16

グラフー市内路線バス利用者数の推移（資料：越後交通(株)、南越後観光バス(株)、北越後観光バス(株)）



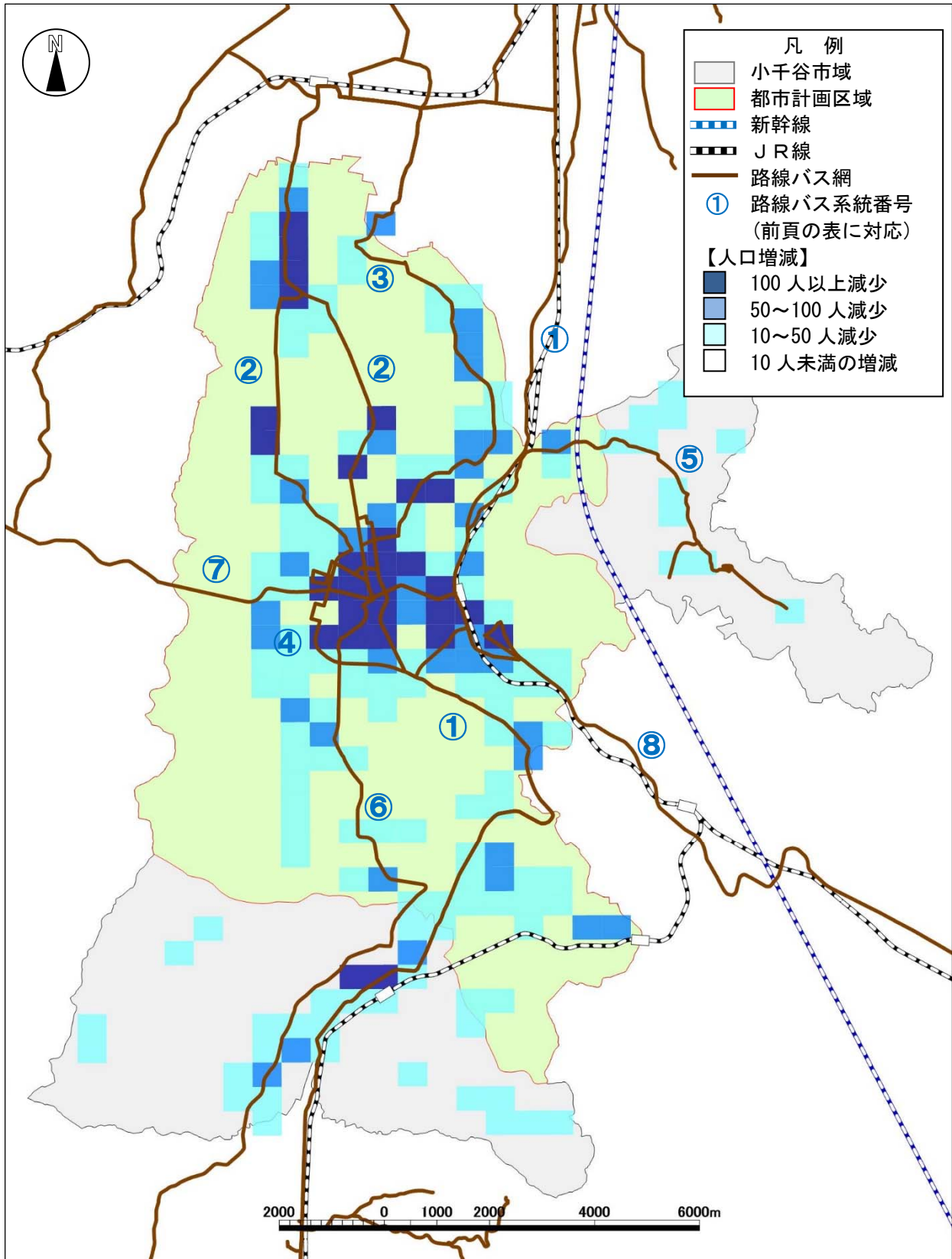
③ コミュニティバス

コミュニティバスは、岩沢地区の生活交通空白地域（岩山・池ノ又・田代・小土山・外之沢）で平成 16 年 10 月から導入されており、利用者は年々増加しています。

④ 乗合タクシー

乗合タクシーは、池の平線（池の平-川井-内ヶ巻～(川口)～市街地）、北山線（北山-若栃-吉谷～市街地）の 2 路線が運行しており、利用者は減少傾向にあります。

図一 公共交通路線網と人口増減(2010→2040年)の関係



(参考) 小千谷市公共交通マップ (令和2年4月1日改正)

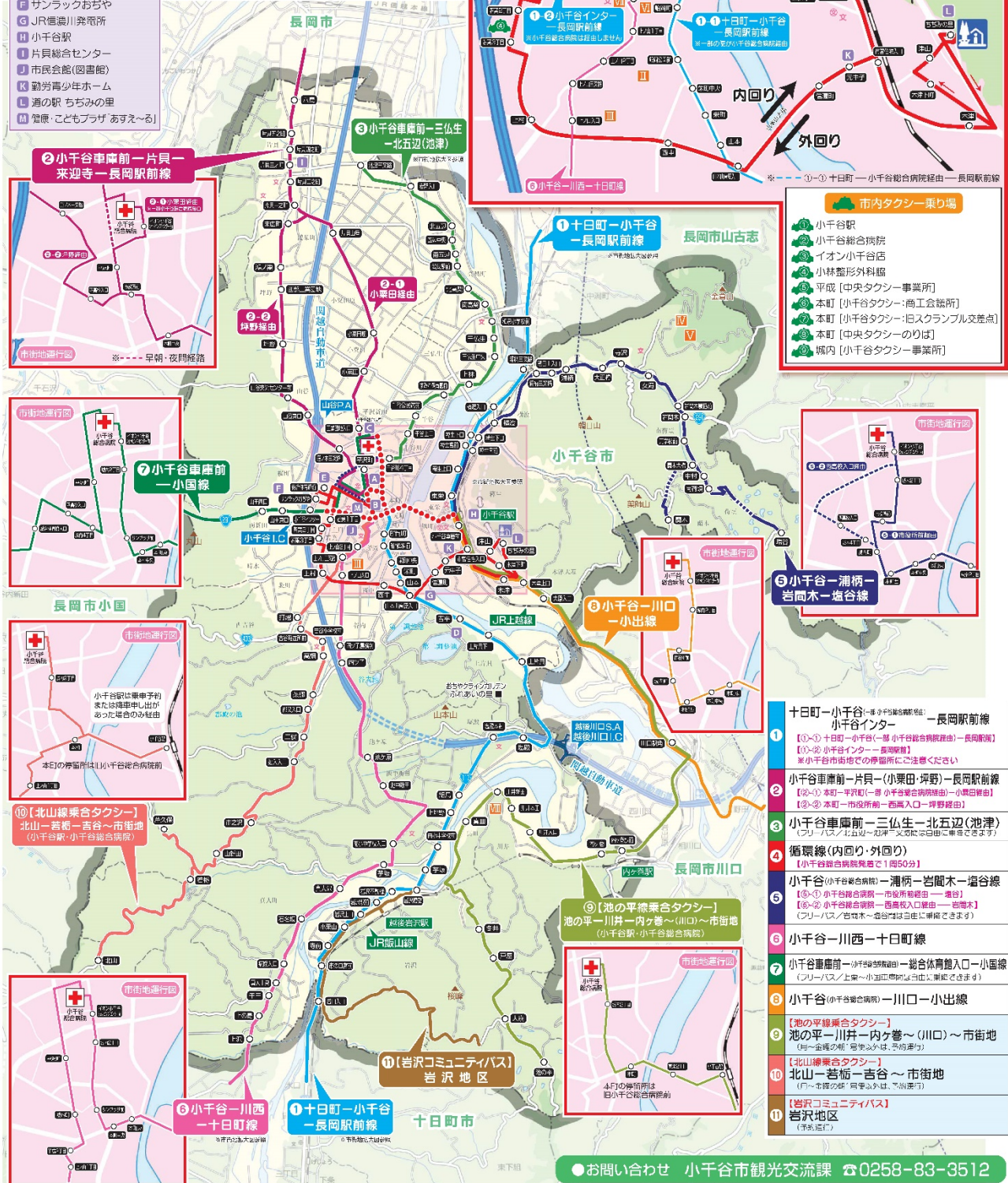
小千谷市公共交通マップ

[令和2年4月1日改正]

①運行内容については変更される場合があります。
必要に応じて運行事業者等にご確認ください。

※各バス路線の主要停留所時刻表ならびに、JR(上越線・越後線)の列車の時刻表は、裏面をご覧ください。

- | 市内の主な施設 | 市内の主な観光施設 |
|----------------------|--------------------|
| A 小千谷市役所 | I 鉄道の里 おおひら越後線サンブラ |
| B サンブラザ(小千谷市観光産業振興会) | II 船岡公園西軍墓地 |
| C 小千谷総合病院 | III 栗原庭・そなえ地 |
| D 市民の家 おちゃへる | IV 木鏡上人作 三十三観音他二像 |
| E 総合体育館 | V 小千谷闘牛場 |
| F サンラックおぢや | VI 慈眼寺(河井・岩村会員の庵) |
| G JR信濃川発電所 | VII 明石堂 |
| H 小千谷駅 | VIII 木造聖梁明王坐像(妙善寺) |
| I 片貝総合センター | |
| J 市民会館(図書館) | |
| K 勤労青少年ホーム | |
| L 道の駅 ちちみの里 | |
| M 健康・子どもプラザ あすえ〜 | |



- ### 市内タクシー乗り場
- 小千谷駅
 - 小千谷総合病院
 - イオン小千谷店
 - 小林整形外科
 - 平成【中央タクシー事業所】
 - 本町【小千谷タクシー-商工会議所】
 - 本町【小千谷タクシー-旧スクランブル交差点】
 - 本町【中央タクシーのりば】
 - 城内【小千谷タクシー事業所】



- 10 十日町-小千谷(小千谷総合病院前)-長岡駅前線
小千谷インター
① ①② 十日町-小千谷(小千谷総合病院前)-長岡駅前線
①③ 小千谷インター-長岡駅前線
※小千谷市街地での停留所にご確認ください
- 2 小千谷車庫前-一片貝(小栗田・坪野)-長岡駅前線
②① 本町-坪野町(小千谷総合病院前)-小栗田線
②② 本町-市役所前-西高入口-坪野線
- 3 小千谷車庫前-三仏生-北五辺(池津)
③① 小千谷車庫前-三仏生-北五辺(池津)線
- 4 循環線(内回り/外回り)
【小千谷総合病院発着で1回50分】
- 小千谷(小千谷総合病院)-浦柄-岩間木-塩谷線
⑤① 小千谷総合病院-市役所前線
⑤② 小千谷総合病院-西高入口線
⑤③ 小千谷総合病院-西高入口線-岩間木
(フリーバス/岩間木-塩谷間は自由に乗降できます)
- 6 小千谷-川西-十日町線
- 7 小千谷車庫前(小千谷総合病院)-総合体育館入口-小国線
(フリーバス/上高-小国間は自由に乗降できます)
- 8 小千谷(小千谷総合病院)-川口-小出線
- 9 池の平線乗合タクシー
池の平-川井-内ヶ巻(川口)~市街地
(日一往復の往・帰便以外、予約あり)
- 10 北山-若柄-吉谷~市街地
(日一往復の往・帰便以外、予約あり)
- 11 岩沢コミュニティバス
岩沢地区
(予約あり)

●お問い合わせ 小千谷市観光交流課 ☎0258-83-3512

(参考) 自動車保有台数の推移

小千谷市の近年の自動車保有台数の推移は微増傾向にあります。人口が昭和 55 年をピークに減少傾向にあることを踏まえると、高齢者も含めて日常的な移動手段は自動車を中心であると推察されます。

表一 小千谷市の自動車保有台数の推移 (資料: 小千谷市統計書)

(単位: 台)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
乗用車(普通)	4,142	4,182	4,235	4,195	4,232	4,276	4,346	4,388	4,481	4,573
乗用車(小型)	8,503	8,348	8,122	7,930	7,739	7,656	7,576	7,489	7,284	7,132
軽自動車	12,625	12,827	13,029	13,224	13,308	13,385	13,481	13,556	13,929	14,137
合計	25,270	25,357	25,386	25,349	25,279	25,317	25,403	25,433	25,694	25,842

図一 小千谷市の自動車保有台数の推移 (資料: 小千谷市統計書)

